

日本最高峰の がん医療教育施設 で学ぶ

国立がん研究センター中央病院での
研修を希望する医師の皆さんへ

2020年度 中央病院募集要項



国立がん研究センター
中央病院
National Cancer Center Hospital

<https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/>

2 沿革／設立の目的とその使命
4 理事長ごあいさつ
5 病院長ごあいさつ
6 研修に関連する情報
10 研修に関連するQ&A
11 連携大学院制度

【中央病院】
13 研修制度概要
16 研修課程
51 がん専門修練医からのメッセージ
52 レジデントからのメッセージ

56 がん専門修練医募集要項
58 レジデント（3年・2年・連携大学院）・
専攻医募集要項
60 レジデント（短期）・専攻医募集要項
62 採用試験日程
63 交通案内

設立の目的とその使命

戦後、日本人の疾病構造が変化し、「がん」による死亡が増加し、その傾向はさらに強まることが予測されたため、国として、国民の医療・保健対策上の見地から、がん対策の中核として総合的な「がんセンター」の必要性が強く認識されました。そこで、1960年、当時の日本医学会会長、田宮猛雄氏ら9名の学識経験者からなる国立がんセンター設立準備委員会が発足し、「国立がんセンター」のあり方、将来構想など重要事項について検討し、厚生大臣宛に意見具申書を提出しました。それによって、1962年2月1日、「国立がんセンター」が正式に発足しました。その目的は、東京に理想的ながんセンターを設立して全国的ながん施策の中核にすることでした。

その後、1992年に千葉県柏市に国立がんセンター東病院が設立され、1994年には、東病院に隣接して研究所支所、2004年には、がん予防・検診研究センターが築地キャンパスに設立され、翌2005年には柏キャンパスの東病院の中に研究所支所の組織を改め臨床開発センターが活動を開始しました。さらに2006年10月には築地キャンパスにがん対策情報センターが設立され、より一層施設の拡張と充実がなされ、病院、研究所が一体となって予防、診療、研究、研修、情報収集・発信の分野において、我が国のがん施策の中心的な役割を果たして来ました。国立がん研究センター（2010年4月1日、独立行政法人化により名称変更）は、我が国のみならず、世界的ながん対策の中核的な施設として、人類の悲願である「がん克服」に向けて、全力で取り組んでおります。（2015年4月1日、国立研究開発法人国立がん研究センターに名称変更）



設立時の建物



外来診療棟竣工（1978年）



研究棟竣工（1981年）



東病院と次世代外科・内視鏡治療開発センター

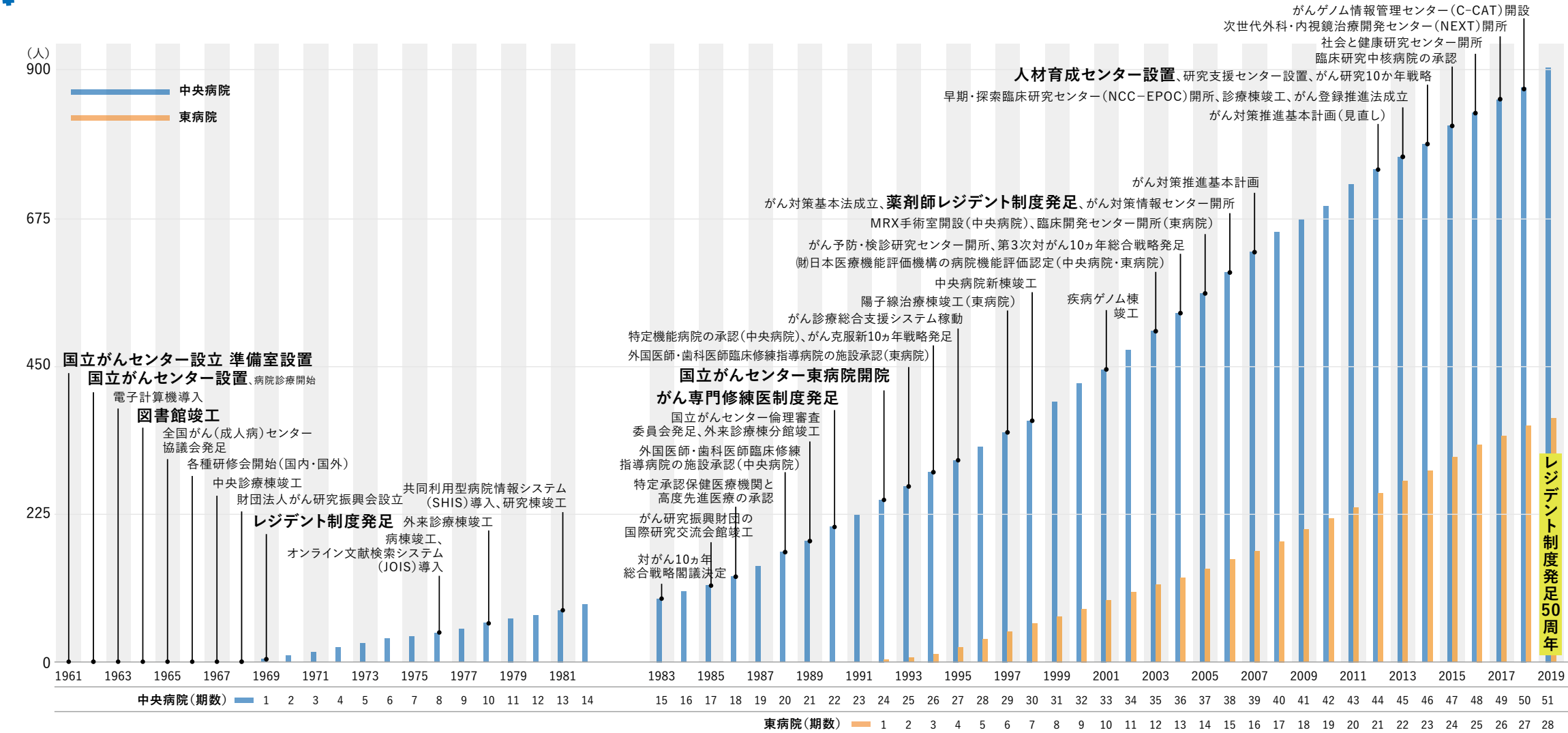


中央病院新棟竣工（1998年）



「癌」の文字から「𠩺」（ヤマイダレ）を取り除き「品」とし、これを図案化したものです。（1970年制定）
国立がん研究センターのシンボルマークの3つの輪は、（1）診療（2）研究（3）教育をあらわしています。
外側の大きな輪は患者・社会との協働を意味します（2014年）。

レジデント制度 50年のあゆみ



社会と協働し、全ての国民に最適ながん医療を提供する ～日本のがん医療を牽引する国立がん研究センターのレジデント制度にご期待下さい～

国立がん研究センターは、1962年に東京築地に創設されました。以来、50年以上にわたり、わが国のがん医療の中核機関として日本のがん医療とがん研究を牽引する役割を担い続けています。

東京の築地キャンパスでは、がんの画期的な診断・治療法を実現してきた「中央病院」、がんの基礎研究に革新的な成果を挙げてきた「研究所」、がんの予防・早期発見の開発に加えて、公衆衛生、健康科学および社会学などの関連研究を担う「社会と健康研究センター」、最新で正確ながん情報を広く国民に提供する「がん対策情報センター」が一体となって、アカデミックセンターを形成しています。千葉県の柏キャンパスには「東病院」があり、陽子線治療棟、緩和ケア病棟などに加え、2017年5月には次世代外科・内視鏡治療開発センター（NEXT）が開設されました。中央・東両病院ともに特定機能病院として、高度な医療・医療技術の開発や研修機能が期待されています。また、築地・柏両キャンパスの病院と連携して最先端の開発研究を推進する「先端医療開発センター（EPOC）」も併設されています。最近では、個々の患者さんに最適化された医療を提供する Precision Medicine（最適医療）を実現するために、ゲノム医療の実装に向けた体制構築にも精力的に取り組んでおり、2018年3月には築地・柏両キャンパスの病院が、がんゲノム医療中核拠点病院に指定されました。

教育・研修に関しても様々な取り組みを進めています。慶應義塾大学、順天堂大学、東京慈恵会医科大学、長崎大学等との連携大学院制度を取り入れ、リサーチマインドを持ち、幅広い知見を備えた臨床医の育成を目指しています。また教育・研修をサポートするための組織として、中央病院・東病院それぞれに人材育成センターが設置されており、若手の医師・研究者の育成体制を一層強化しています。国立がん研究センターは日本のがん医療の中心として、また将来の日本のがん医療・がん研究を担う人材を育成するための組織として常に進化し続けています。

シンボルマークの3つの輪は「診療」、「研究」、「教育」をあらわしています。医師、看護師、薬剤師をはじめとするがん医療従事者の教育・育成は、国立がん研究センターの重要なミッションです。レジデント制度は、体系的にがん医療を学び、がん専門医を養成する制度として1969年に創設され、1990年からは高度専門的な研修を行うがん専門修練医制度も取り入れてきました。当センターでがんに関するオールラウンドな教育を受けた医師が、日本国内だけでなく、世界各地でがん医療の発展のために活躍しています。国立がん研究センターレジデント制度開始から50年が経った現在、次の50年を見据えて教育施設としての機能に磨きをかけ、これまで以上に多くのがん診療、研究に携わる方のキャリアアップに貢献し、がん医療の向上を目指したいと考えているところです。

本募集要項を手になされている皆様は、私たちと同じ目標に向かい、同じ道を歩もうとされているのだと思います。がん患者さんに最適な医療を提供するために貢献されたいという皆様の思いに、センター一丸となって応えて行きたいと考えています。がんを克服するために世界最高の技術と知識を身につけたいと努力する者が互いに協働することにより、より大きな力となり、がん克服という目標に更に近づくことが可能になると信じています。皆様の第一歩が、明日のがん医療・がん研究における大きな一歩となりますよう共に歩めることを心より願っています。

最高の診療・研究環境、そして教育病院としての経験を兼ね備えた国立がん研究センターで、リサーチマインドを兼ね備えたがん医療の専門医としての、確かな一歩を踏み出してください。



理事長
中 釜 斉

最高のがん医療を学び、より良い明日の医療をつくるために

国立がん研究センター中央病院は、1962年に現在の築地の地に開院しました。以来半世紀以上にわたり、「がんを克服し、安心してがんと生きることができる社会」の実現を目指し、新しい、そして、人に優しい診断・治療法を開発してきました。同時に、日本全国で活躍する数多くのがんの専門医や医療従事者を育成してきました。現在、国立がん研究センターは、研究成果の最大化を目指す国立研究開発法人ですが、中央病院は、2015年には臨床研究中核病院に、2018年にはがんゲノム医療中核拠点病院並びに希少がん中央機関に指定され、最高の医療をがん患者さんに届けるだけでなく、国とタイアップして次の時代のがん医療の開発を中心的に取り組む組織になりました。より良い明日のがん医療を開発するため、中央病院では、医師主導治験を含め450を超える治験を行っており、約100の特定臨床研究を行っています。内視鏡手術や先進的なロボット手術に加え、世界でもトップクラスの内視鏡センターやIVR（Interventional Radiology）センターでは、AIだけでなく全ての技術を集約したより低侵襲な医療開発にも取り組んでいます。

医師のレジデント制度は、体系的にがん医療を学びがんの専門医を養成する制度として1969年に発足し、50年をこえる歴史ある制度です。この間に、より高度で専門的ながん教育を提供し、研究もできるがん専門医を育成する目的で、1989年にがん専門修練医制度が発足しました。更には2006年に薬剤師のレジデント制度も開始されました。豊富な臨床経験と最新の知識や技術が学べ、臨床研究に関しては、「いろは」から最新の高度な応用編までの知識や知恵が得られるこの築地の地から、数多くのがん医療のリーダーが育ち、全国のがんセンター、大学病院などで活躍しています。近年では、慶應義塾大学、順天堂大学、慈恵大学、長崎大学等々との連携大学院制度を導入し、レジデントとして、或いはがん専門修練医として、臨床修練を積み臨床研究を行いながら、同時に学位を得ることができるようになりました。更には、レジデント或いはがん専門修練医期間に始めた研究を更に深めたいという人材には、それに呼応する制度も創設されました。中央病院は認定された専門医制度を持つ各種学会の専門医教育病院でもあります。がんに関する圧倒的な症例数や臨床研究数を持ち、それぞれの領域の第一人者による充実した指導が最新の診療・研究設備の下で行われており、専門医制度が求める質の高い医療とその要件を短期間で達成することができます。

がんの医療に関心があり、がんに病む患者さんの治療成績や生活の質を少しでも良くしてあげたいと思われる皆様にとって、国立がん研究センターと中央病院は、同じ思いを持ち、同じ目標を持つ仲間だと考えています。皆様方と一緒に、がん患者さんに最高の医療を提供し、そして明日のより良いがん医療を創っていきたく思います。そして、ここでの経験や研修が皆様方にとって最高の思い出になるよう、中央病院は尽力してまいります。

一緒に未来の医療をつくろうではありませんか。



中央病院 病院長
西 田 俊 朗

研修に関連する情報

学会の認定医・専門医教育病院の指定

国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院は、次の学会などの認定医・専門医教育病院として指定されています。



中央病院

- 日本内科学会

日本外科学会

日本医学放射線学会

日本肝胆膵外科学会

日本緩和医療学会

日本眼科学会

日本血液学会

日本呼吸器学会

日本呼吸器内視鏡学会

日本産科婦人科学会

日本耳鼻咽喉科学会

日本小児科学会

日本消化管学会

日本消化器外科学会

日本消化器内視鏡学会

日本カプセル内視鏡学会

日本消化器病学会

日本食道学会

日本整形外科学会

日本精神神経学会

日本胆道学会

日本超音波医学会

日本頭頸部外科学会

日本乳癌学会

日本脳神経外科学会
- 日本泌尿器科学会

日本放射線腫瘍学会

日本麻酔科学会

日本臨床腫瘍学会

日本がん治療認定医機構

日本 IVR 学会

日本形成外科学会

日本集中治療医学会

日本小児血液・がん学会

日本皮膚科学会

日本病理学会

日本婦人科腫瘍学会

日本輸血細胞治療学会

日本臨床細胞学会

呼吸器外科専門医合同委員会

日本静脈経腸栄養学会

日本臨床検査医学会

日本感染症学会

日本核医学会

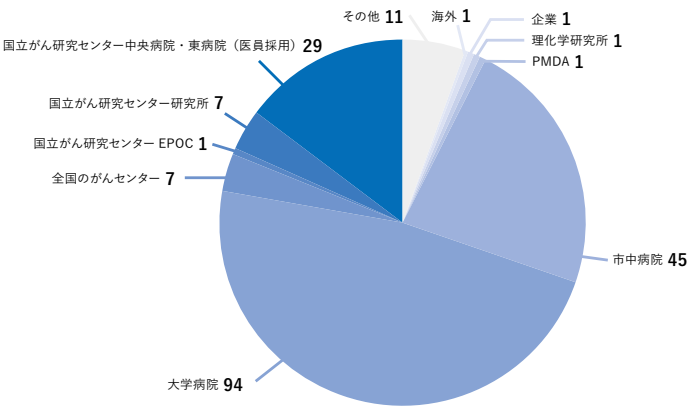
日本膵臓学会

日本総合病院精神医学会

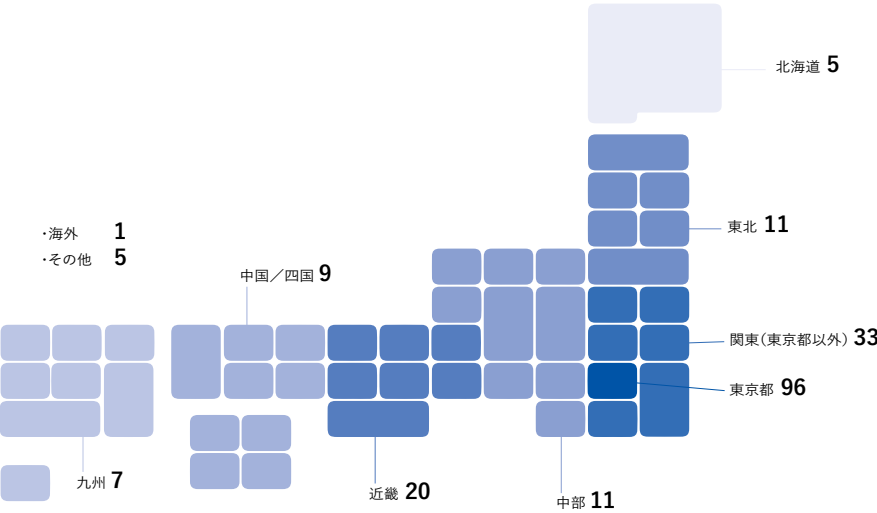
最新の施設認定状況については病院HPでご確認下さい。

研修後の進路 (2016年度 - 2018年度)

◆機関別



◆都道府県別



Facebook

教育・研修等に関する情報を随時掲載しています。

◆アクセス方法

中央病院
<http://www.facebook.com/CancerEducation/>



中央病院



研修に関連する情報



多様な院内カンファレンス

100件を超えるカンファレンス（診療科単位、合同カンファレンス等）が毎週開催され、当院研修中の皆さんが常に参加し、プレゼンテーションし、指導医のフィードバックを受けています。



院内宿舎

希望者には病院に直結した院内宿舎が貸与され、研修や研究に専念しやすい環境が整備されています。

（単身用）宿舎費は1ヶ月あたり10,000円から15,000円（光熱費、水道料金別）です。



院内保育園

病院敷地内に院内保育園が完備されており、延長保育、夜間保育、休日保育、一時保育などに対応が可能な体制にあります。



図書館

がん対策や研究活動を支援するため資料を広く収集しており、がん医療に関する日本屈指の図書・蔵書を誇っています。近年はオンラインによる文献検索、二次資料サービスの施設契約を進めており、UpToDate®、Web of Science®、Cochrane Library®、医中誌®、メディカルオンライン®などをレジデントの先生方が自由に利用することが可能です。VPN導入により、電子ジャーナルも含めて、出張先でも利用可能になりました。



手術件数

年間約5700件（手術室17室）の手術が実施されており、その件数は年々増え続けています。



化学療法実績

年間5万件のがん化学療法が実施されており、そのうち3万5000件が通院治療センター（69床）での外来治療で行われています。

臨床試験



がん医療の未来を切り開くための治療開発は、国立がん研究センターの重要なミッションです。築地キャンパスでは、治験を年間400件以上、治験以外の臨床研究を年間1000件以上実施し、新しいがん医療創出の中心拠点として世界的な実績を多数あげています。

研修に関連する Q&A

Q 研修の特徴は何ですか？

A 当センターレジデントは第51 期生を数え、内科、外科ともに、幅広い知識と技術を習得した腫瘍専門医の育成を目指しています。主な診療科をローテーションするシステムを採用し、がん種による偏りなく、薬物療法、手術療法、放射線療法などの実践的知識を身につけられる数少ないがん医療教育機関です。がん医療のエキスパートによる直接指導を受け、かつ全国から集まる医師との結びつきを通じて、知識・技術、人脈を獲得できます。

Q 関連領域を、ローテーションして研修可能ですか？

A 可能です。レジデントコースには関連領域も含め、腫瘍専門医として揺るぎない足場を固めるために必要十分なローテーションが組み込まれたプログラムがあります。領域にかかわらずがん治療に必要な知識、手技を習得するという目的で世界標準のローテーションプログラムを、50 年以上前に日本で初めて提供開始した教育病院こそ、国立がん研究センターです。その研修制度は、がん医療が進歩するにつれ重要性を増しています。さらに、レジデントコース以外の先生方にも、関連領域を学ぶ機会が提供されています。

Q レジデント修了後の進路は？

A レジデント修了後、さらに専門性を高めたい方には当院のがん専門修練医コースが2 年間用意されています。また、リサーチレジデント等として当院併設の研究所に引き続き所属し、臨床で得た疑問や着想を研究活動に活かしている先生方が多いことも特徴です。当然のことながら、当院修了後、各大学、研究機関、政府機関、地域のがん拠点病院、他の市中病院に異動され、それぞれの立場で腫瘍専門医として活躍されている方はさらに多くいらっしゃいます。

Q がん医療に関わった経験が少なく、がん専門病院での研修に不安があります。

A 当院ロゴマークにもあるように、国立がん研究センターの目標は、世界最高水準のがん診療、最新の治療法研究・開発、そして優れたがん医療教育の提供にあります。実際、当院で研修を開始される時点でほとんどがん治療に関する知識、技術がなかった先生方も、研修修了時点には腫瘍専門医としてひとり立ちできるまでに成長します。まずは現在の施設、環境で、内科、外科など基本領域の知識、技術を習得することに専念し、国立がん研究センターでの研修開始後の飛躍の礎を築いてください。

Q 教育環境について教えてください。

A 診療の現場では、頻度の多いがん種から希少がんまで幅広く、かつ他のどの施設よりも豊富な診療経験を、内科治療、外科治療、診断学、すべてのがん医療の局面で実践することが可能です。さらに、100 件を超えるカンファレンス（診療科単位、合同カンファレンス等）が毎週開催され、当院研修中の皆さんが常に参加し、プレゼンテーションし、指導医のフィードバックを受けています。その結果、当院研修中もしくは修了後に、ほとんどの先生方が国内外の学会発表、英文・和文論文の執筆の機会に恵まれています。

Q 研究や学会活動について教えてください。

A 当院での研修中、臨床研究、基礎研究、学会発表、論文執筆等、なんらかの学術活動を実践することが可能です。Japan Clinical Oncology Group (JCOG) 等臨床試験グループをはじめとして、新たな治療法の確立のための臨床試験が数多く実施され、その経験が自らの研究の糧になっています。また、併設された研究所を中心として、豊富な臨床検体を用いた基礎研究を実践する機会にも恵まれています。その結果、レジデントの先生方による、国内外の学会発表、英文・和文論文執筆が活発に行われ、きめ細やかな指導医のサポートのもと優れた業績が築かれています。国内の学会参加については必要経費の補助制度も利用可能です（基準有）。

Q レジデント、がん専門修練医の給料はどのくらいですか？

A レジデントコースの月額は概ね35 万円で、がん専門修練医の月額は概ね40 万円です。これ以外に時間外手当等の手当が付きまします。病院に直結した単身宿舍（有料）を借りることができるため、家賃負担が低減されています。さらに、診療科との相談、業務内容に応じて、休日に他病院のアルバイトをされている方もいらっしゃいます。

Q 新専門医制度への対応状況を教えてください。

A 国立がん研究センター中央病院、東病院ともに新専門医制度に対応しています。具体的には、本冊子の18 ページに対応状況が取りまとめられています。なお、新専門医制度自体の変更が多い状況が続いておりますため、最新の情報は専門教育企画係(kyoiku-resi@ncc.go.jp) までご相談ください。

連携大学院制度

「学位」が取得できる画期的な連携大学院制度

国立がん研究センターは、慶應義塾大学、順天堂大学、東京慈恵会医科大学、長崎大学、それぞれと連携協力のための協定書を締結し、「連携大学院制度」を導入しております。

2012 年度から開始しているこの連携大学院制度は、レジデントなどの臨床研修期間中に、国立がん研究センター内で研究活動にも取り組み、その成果をもって学位の取得ができるという画期的なものです。国立がん研究センター内でも一部の授業科目の単位の修得を可能とするなど、連携大学院生の負担を軽減しつつ、十分な臨床研修・研究活動を行う環境を整備し、がんを専門領域とする若手医師が研究に取り組むことができる万全の態勢を整えています。2018 年度からは学位取得を目指す方を対象とした連携大学院コースも設定しました。

連携大学院制度は、リサーチマインドを持ち幅広い知見を持った臨床医を育成していくことを目的としています。多くの方がこの制度を利用することを期待しております。

【連携大学院制度の出願について】

すべての研修医に適用されるものではありませんので、研修コース・診療科によっては連携大学院制度をご利用いただけない場合があります。出願を希望される方は必ず下記までお問い合わせください。

連携大学院制度についてのお問い合わせ kyoiku-resi@ncc.go.jp

●連携大学一覧

国立がん研究センター
築地キャンパス
柏キャンパス



&

慶應義塾大学



【慶應義塾大学医学部・慶應義塾大学大学院医学研究科との連携大学院】

(築地キャンパス、柏キャンパス)

1 年次、2 年次は、毎週水曜日の夕方に、慶應義塾大学信濃町キャンパスで講義を受講しながら、国立がん研究センターで臨床研修や研究活動を行います。研究内容としては、4 年の間に基礎研究や臨床研究で成果を上げることが想定されています。入学試験等については、慶應義塾大学大学院医学研究科のホームページをご参照ください。 <http://www.med.keio.ac.jp/admissions/doctoral/guidelines.html>

国立がん研究センター
築地キャンパス
柏キャンパス



&

順天堂大学



【順天堂大学との連携大学院について】

(築地キャンパス、柏キャンパス)

順天堂大学にて開講される数週間ずつの基礎教育コース、実践教育コースや、夜間開講の大学院特別講義（Web 配信によるビデオオンデマンドでの受講も可）などを受講しながら、国立がん研究センターで臨床研修や研究活動を行います。研究内容としては、4 年の間に基礎研究や臨床研究で成果を上げることが想定されています。カリキュラム・入学試験等については、順天堂大学大学院医学研究科のホームページをご参照ください。カリキュラム <http://www.juntendo.ac.jp/graduate/kougi/> 電子シラバス <http://dr-syllabus.juntendo.ac.jp/> 入学試験 <http://www.juntendo.ac.jp/graduate/exam/admission.html>

国立がん研究センター
築地キャンパス
柏キャンパス





東京慈恵会
医科大学



【東京慈恵会医科大学大学院医学研究科との連携大学院について】

(築地キャンパス、柏キャンパス)

東京慈恵会医科大学にて開講される共通カリキュラム（必修科目は原則平日 18 時以降、または土曜日に開講し、1 年間で修了に必要な単位の取得が可能。選択科目は 1 科目 3 日～4 日間程度の集中授業の他、e-learning 科目も有るため必要単位を全て在宅で取得することも可能）を受講しながら、国立がん研究センターで臨床に従事したまま研究活動を行います。研究内容は連携大学院教員の指導のもと、選択カリキュラムとして基礎研究や臨床研究で成果をあげ、学位取得を目指します。カリキュラムの概要や入学試験日程等については東京慈恵会医科大学大学院医学研究科のホームページをご参照ください。
<http://www.jikei.ac.jp/univ/gradu/index.html>

国立がん研究センター
築地キャンパス
柏キャンパス





長崎大学



【長崎大学との連携大学院について】

(築地キャンパス、柏キャンパス)

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程では、国立がん研究センターと連携して、医療科学専攻に「包括的腫瘍学分野」を設けています。この包括的腫瘍学分野で研究指導を受ける学生は、専攻の枠を越えた多様な科目を、講義室やオンデマンドで受講することができます。そのため、学生は長崎大学に入学することなく、国立がん研究センターで演習や研究指導を受けながら学位を取得することも可能です。包括的腫瘍学分野における研究では、がんの本態解明や予防などの基礎研究から、診断・治療や病態生理といった臨床研究、がんサバイバーシップや個別化医療開発といった応用まで、がんに関わる幅広いテーマが扱われています。
大学院ホームページ <http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/index.html> 入学希望の皆さまへ <http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/admission/index.html>

※前述の大学以外の大学院に在籍されている方も、現在の在籍先の承認が得られれば当院で研修が可能です。

研修制度概要

がん専門修練医

" 各領域のリーダーを目指す "

原則として当センターのレジデント修了者、またはサブスペシャリティ領域専門医取得相当の医師を対象とし、がんの診断・治療・研究に必要な高度先進的な知識と技術を有するがん診療の専門医を育成することを目的としています。研修年限は 2 年で、指導医のもとで高度の知識・技術の習得・開発、さらには臨床研究、トランスレーショナルリサーチ、基礎研究も実践します。各領域の将来のリーダーを目指す人材の育成を目的とした研修制度です。



レジデント（3年コース・2年コース）

" 国立がん研究センター教育・研修制度の中核 "

原則として医師免許取得後 3 年以降、基本領域専門医取得相当の者を対象に、複数診療科のローテーション研修、あるいは特定診療科の研修を通して、がんに関する幅広い知識と技術の習得を目指します。我が国を代表する指導医のもとでがん診療、がん研究に従事することにより、日本のがん医療を支える、すぐれたがん専門医を育成することを目的とした、国立がん研究センター教育・研修制度の中核となる研修制度です。2 年コースについては研修開始時期が選択可能です。



レジデント（短期コース）

がん医療の均てん化に貢献することを目的として、柔軟な研修開始時期、研修期間により研修者のニーズに幅広く対応するための研修制度です。研修開始時期は 4 月、7 月、10 月、1 月から選択可能です。研修期間は最短 3 ヶ月です。

連携大学院コース

学位取得を目指す研修者を対象とした、レジデントとがん専門修練医を組み合わせたコースです。

専攻医コース（基幹施設型・連携施設型）

新専門医制度のもと、当センターでの研修を希望される研修者を対象としたコースです。

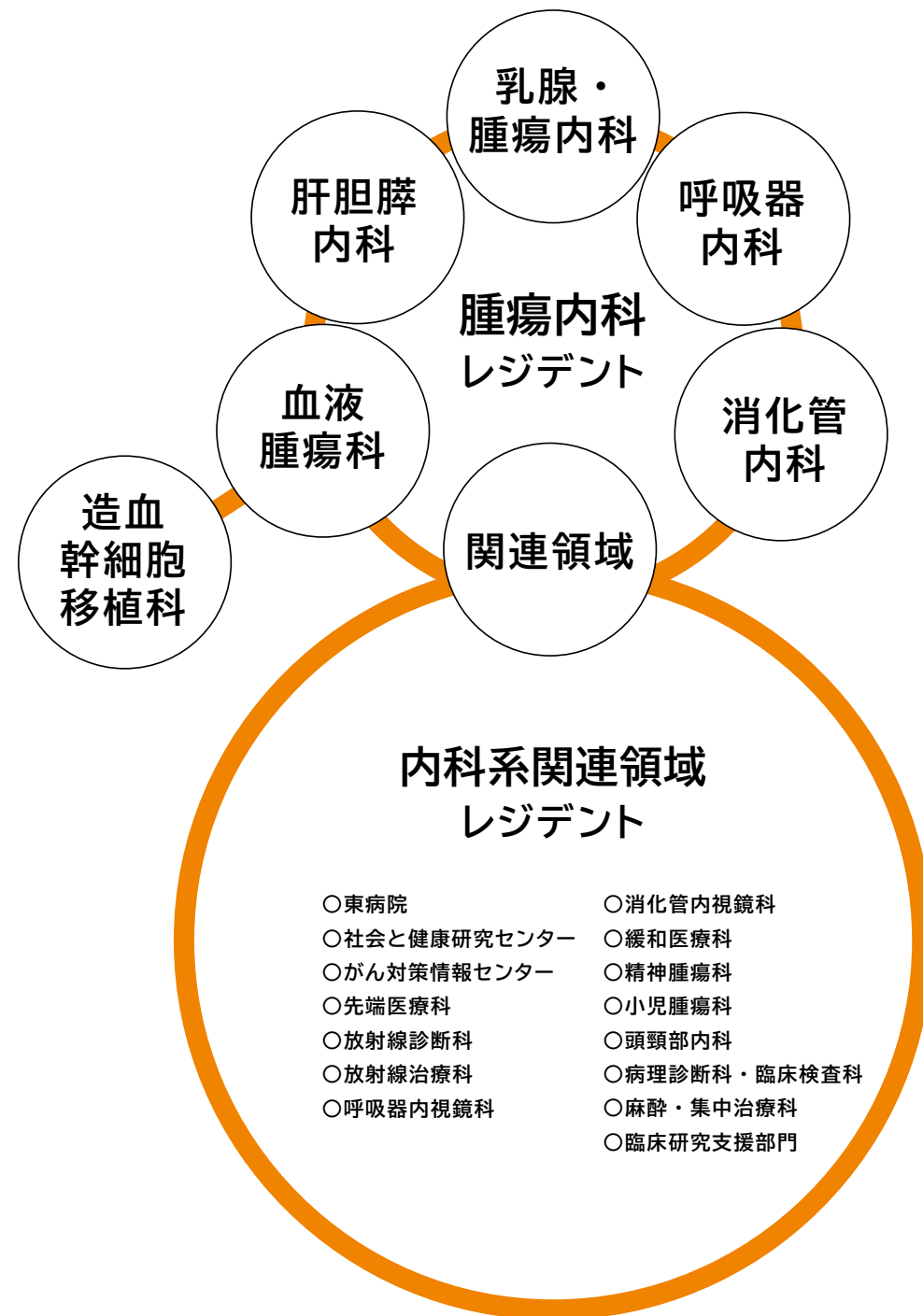
任意研修

1 日以上任意の期間で研修できる制度です。処遇、手続き等が通常のレジデント制度とは異なるため、希望される方は下記までお問い合わせください。

任意研修についてのお問い合わせ kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修制度概要

腫瘍内科 レジデントコースのイメージ



Point01

がん専門医へのスタンダード

がん研究センターが50年以上にわたって提供し続けている教育システムには、世界レベルの腫瘍内科研修を行うために必要なものがすべて揃っています。

Point02

ローテーション

すべてのがん種と必須の関連領域（緩和医療、集中治療）をカバーし、かつ各々が国内最高峰の診療科のローテーションにより、最高の腫瘍内科研修を行います。

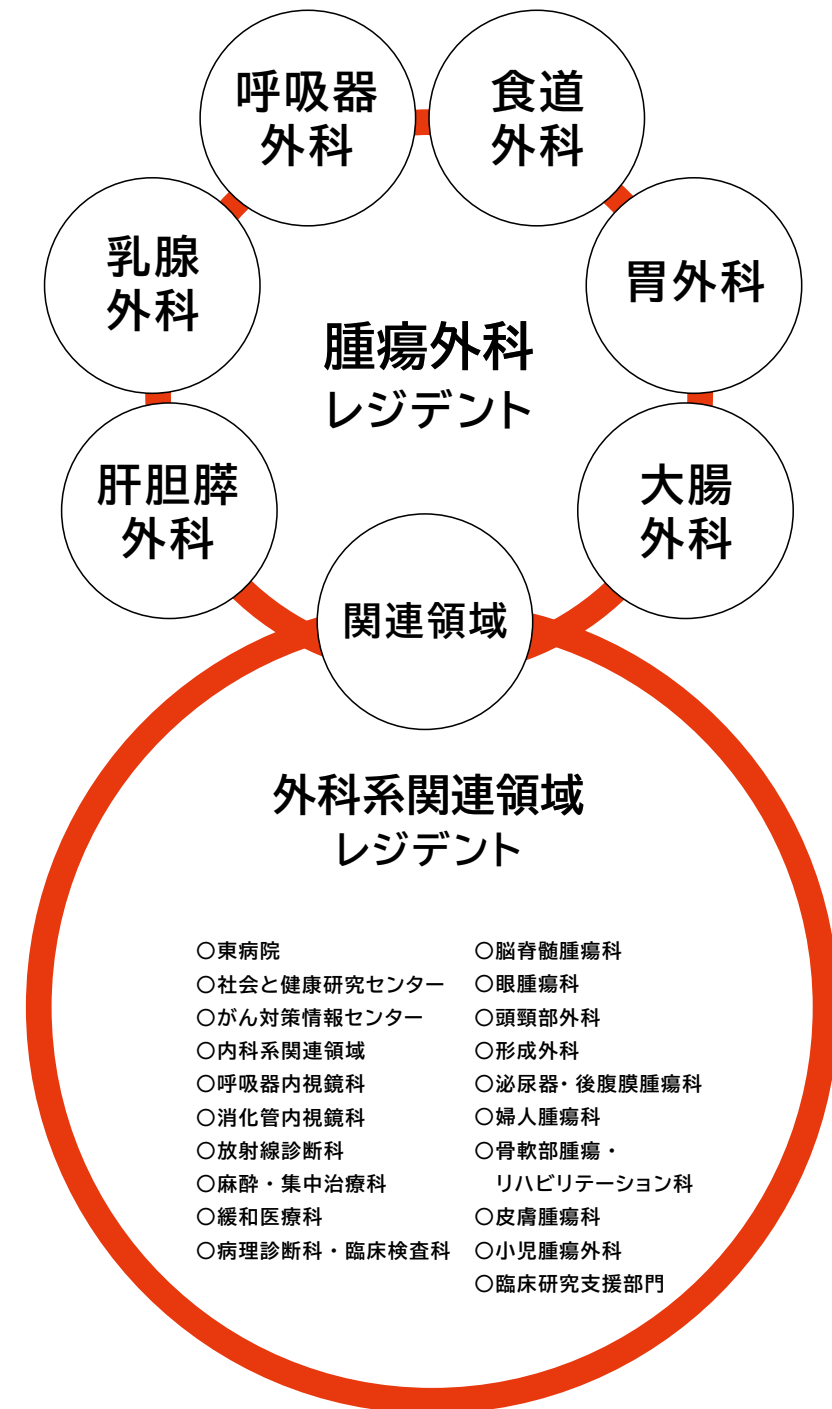
Point03

選択研修

レジデントコースでは、自らの選んだ選択研修を組むことが可能です。

研修制度概要

腫瘍外科 レジデントコースのイメージ



Point01

がん専門医へのスタンダード

がん研究センターが50年以上にわたって提供し続けている教育システムには、世界レベルの腫瘍外科研修を行うために必要なものがすべて揃っています。

Point02

ローテーション

すべてのがん種と必須の関連領域（病理、緩和医療、集中治療）をカバーし、かつ各々が国内最高峰の診療科のローテーションにより、最高の腫瘍外科研修を行います。

Point03

選択研修

レジデントコースでは、自らの選んだ選択研修を組むことが可能です。

中央病院研修課程

	コース	がん専門 修練医	レジデント					専攻医
			3 年	2 年	連携大学院	短期（最短／最長）		
1	腫瘍内科総合	—	○	—	—	—	—	○
2	血液・腫瘍内科総合	—	○	—	—	—	—	—
3	呼吸器内科	○	○	○	○	3 か月	1 年	○＊1
4	消化管内科	○	○	○	○	3 か月	1 年	○＊1
5	肝胆膵内科	○	○	○	○	3 か月	1 年	○＊1
6	消化器内科総合	○	○	○	○	6 か月	1 年	—
7	乳腺・腫瘍内科	○	○	○	○	3 か月	1 年	○＊1
	乳腺薬物療法／婦人科腫瘍薬物療法／腫瘍内科	—	—		—	—	—	
8	血液腫瘍科	○	○	○	—	3 か月	1 年	○＊1
9	造血幹細胞移植科	○	○	○	—	3 か月	1 年	○＊1
10	先端医療科	○	○	○	○	3 か月	1 年	○＊1
11	小児腫瘍科	○	○	○	○	3 か月	1 年	—
12	頭頸部内科	○	○	○	—	6 か月	1 年	—
13	放射線治療科	○	○	○	—	3 か月	1 年	○
14	放射線診断科	○	○	○	—	3 か月	1 年	○
15	内視鏡科（呼吸器）	○	○	○	○	3 か月	1 年	○＊1
16	内視鏡科（消化管）	○	○	○	○	3 か月	2 年未満	○＊1
17	内視鏡エキスパート	—	—	○	—	6 か月	2 年未満	—
18	緩和医療科	○	○	○	○	3 か月	1 年	○＊1
19	精神腫瘍科	○	○	○	—	3 か月	1 年	○
20	外科総合	—	○	—	—	—	—	○
21	呼吸器外科	○	—	○	○	3 か月	1 年	○＊2
22	食道外科	○	—	○	○	3 か月	2 年未満	○＊2
23	胃外科	○	—	○	○	3 か月	1 年	○＊2
24	大腸外科	○	—	○	○	3 か月	1 年	○＊2
25	肝胆膵外科	○	—	○	○	3 か月	1 年	○＊2
26	乳腺外科	○	—	○	○	3 か月	1 年	○＊2
	乳腺専門医取得コース	—	—	○	—	3 か月	2 年未満	—
27	脳脊髄腫瘍科	○	○	○	○	3 か月	1 年	○
28	婦人腫瘍科	○	○	○	—	6 か月	1 年	○
29	頭頸部外科	○	○	○	—	3 か月	1 年	○
30	形成外科	○	—	○	—	6 か月	2 年未満	○
31	泌尿器・後腹膜腫瘍科	○	○	○	○	3 か月	1 年	○
32	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	○	○	—	—	3 か月	1 年	○
33	皮膚腫瘍科	○	○	○	—	6 か月	2 年未満	○
34	小児腫瘍外科	—	—	—	—	3 か月	6 か月	—
35	眼腫瘍科	○	—	○	—	3 か月	1 年	○
36	麻酔・集中治療科	—	○	○	—	6 か月	2 年未満	—
37	病理診断科	○	○	○	—	3 か月	1 年	○
38	臨床検査科	—	—	—	—	—	—	○
39	歯科	—	○	○	—	3 か月	1 年	—
40	臨床研究支援部門	○	○	○	—	3 か月	1 年	—

* 1 内科学会専攻医は腫瘍内科総合にある専攻医コース所属となります

* 2 外科学会専攻医は外科総合にある専攻医コース所属となります

* 連携大学院コース以外でも、連携大学院制度の利用は可能です。詳細はお問い合わせ下さい

腫瘍内科総合

レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：がん薬物療法専門医 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	呼吸器内科、消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科を、各3ヶ月以上ローテーションする 上記以外の期間は自由選択 ※原則として、日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修を行う
	研修の特色	腫瘍内科全般の幅広い診療経験をつむことが可能です 国際学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています
専攻医コース (連携施設型)	対象者	※日本内科学会総合内科専門医取得のための研修を目的としたコース 以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
	研修目標	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	国立がん研究センター中央病院に、3か月単位、最長2年間在籍します 呼吸器内科、消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、造血幹細胞移植科、先端医療科、緩和医療科、内視鏡科等の診療科を、各科 最短3か月単位でローテーションします
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

血液・腫瘍内科総合

レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：血液専門医・がん薬物療法専門医 ・研究：機会に応じて国内・国際学会での筆頭演者、peer review journal での筆頭著者
	研修内容	血液腫瘍科を6ヶ月以上ローテーションする 呼吸器内科、消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科を、各2ヶ月以上ローテーションする 上記以外の期間は自由選択である ※原則として、日本血液学会血液専門医カリキュラム・日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った研修を行う
	研修の特色	血液内科・腫瘍内科全般の幅広い診療経験をつむことが可能であり、血液専門医およびがん薬物療法専門医の両方を取得するために十分な症例を経験することができます 機会に応じて国内・国際学会、peer review journal 論文執筆等の研究活動も可能です

呼吸器内科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・がん薬物療法専門医または呼吸器専門医取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・胸部悪性腫瘍領域における治療開発等、高度な知識、技能を習得する ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者 ・機会に応じて、臨床試験、医師主導治験の事務局を担当する
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は呼吸器内科、1年間は自由選択 ※ 呼吸器内科以外の1年間は診療を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能
	研修の特色	一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象としたコースです
レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：がん薬物療法専門医、呼吸器専門医 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上呼吸器内科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、先端医療科、病理診断科、呼吸器内視鏡、放射線治療科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※ 原則として2年目以降に日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修を行う
	研修の特色	呼吸器内科研修で最も推奨されるコースです 呼吸器内科を中心に幅広い診療経験を積むことが可能です ※ 3年在籍者の経験症例数（例1）：肺癌122例、血液11例、消化器59例、乳癌26例、婦人科腫瘍13例、肉腫など希少がん22例 ※ 3年在籍者の経験症例数（例2）：肺癌150例、血液11例、消化器83例、乳癌30例、婦人科腫瘍6例、肉腫など希少がん40例 国際学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています
レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・がん薬物療法専門医、呼吸器専門医の両方、いずれかの取得を目標としています ・機会に応じて、国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上呼吸器内科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、先端医療科、病理診断科、呼吸器内視鏡、放射線治療科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※ 原則として2年目に日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修を行う
	研修の特色	呼吸器内科を中心に診療経験を積むことが可能です
連携大学院 コース	対象者	レジデント3年コースまたは2年コースに準ずる
	研修目標	・専門医取得：がん薬物療法専門医、呼吸器専門医 ・学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	3年コースもしくは2年コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです 連携大学院制度を用いた学位取得を目指します ※ 前半の3年もしくは2年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※ 後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません
	研修の特色	がん薬物療法専門医、呼吸器専門医取得と同時に、学位取得を目指すコースです 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です
レジデント 短期コース	対象者	原則として日本内科学会総合内科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、胸部悪性腫瘍の基本的な診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	呼吸器内科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする ※ 全体の在籍期間が1年以内であれば、他の診療科（消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、造血幹細胞移植科、先端医療科、病理診断科等）と組み合わせた研修も可能
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

消化管内科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・がん薬物療法専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・消化器悪性腫瘍領域における治療開発等、高度な知識、技能を習得する ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者 ・臨床試験・研究を立案する
	研修内容	初年度には、希望に応じて、研究所で Translational Research を学ぶことも可能。2年度には、消化管内科で臨床試験などの研究活動に参加し、学会発表や論文を作成し、可能であれば臨床試験・研究を立案する
	研修の特色	卒業後も、自分自身で研究を立案することのできる医師の育成を目指している。研修中に研究グループなどを通じて他施設の医師とも交流し、本コースの卒業後にも継続して共同研究できるようになっていただきたい。
レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・がん薬物療法専門医、他、消化器病・消化器内視鏡専門医 ・国際学会・英文論文の筆頭発表者・著者
	研修内容	初年度は、6か月以上消化管内科で研修を行い、その後2年度までに他の臓器別診療科や先端医療科などのがん薬物療法専門医取得に必要な研修（1診療科3か月）を行う。また、希望に応じて肝胆膵内科・消化器内視鏡科、放射線診断（IVR）科、病理診断科などの消化器がん関連科を中心にローテーションすることもできる。さらに、3年度は診療だけでなく研究所で Translational Research を学ぶこともできる。
	研修の特色	基本的には、消化器領域をサブスペシャリティーとしてがん薬物療法専門医取得を目指したプログラムである。研究の一環として、研究所で Translational Research を学ぶこともできる。また、がん診療を中心とした消化器病・消化器内視鏡専門医を目指した研修も可能である。研修中に研究グループなどを通じて他施設の医師とも交流できる。
レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・消化器領域のがん診療における知識・技術の取得 ・国際学会・英文論文の筆頭発表者・著者
	研修内容	初年度は、6か月以上消化管内科で研修を行い、その後2年度までに肝胆膵内科・消化器内視鏡科、放射線診断（IVR）科、病理診断科などの消化器がん関連科を中心にローテーションする。2年度は診療だけでなく研究所で Translational Research を学ぶこともできる。
	研修の特色	基本的には、診断から治療までの広範な消化管がん診療の専門家を目指したプログラムである。研究所で Translational Research を学ぶこともできる。また、希望に応じて、がん薬物療法専門医、消化器病・消化器内視鏡専門医を目指した研修も可能である。
連携大学院 コース	対象者	レジデント3年コースまたは2年コースに準ずる
	研修目標	・専門医取得：がん薬物療法専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡など ・学位取得：大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	レジデント3年コースもしくは2コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです 連携大学院制度を用いた学位取得を意識して、1年目から研究の指導を受けられます ※ 前半の3年もしくは2年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※ 後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません
	研修の特色	・がん薬物療法専門医、消化器系専門医取得と同時に、学位取得を目指すコースです ・国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です ・4-5年の長期間の研修ですので、自分自身の目標にむかって、基礎実験も含めてしっかり研修することが可能です
レジデント 短期コース	対象者	原則として総合内科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	・短期間の研修で、消化管がんの基本的な診療経験を積む ・研修終了後も臨床研究グループなどを通じて関係を継続する
	研修内容	消化管内科を中心に最短3か月から最長1年の期間在籍します ※ 原則として3か月単位とする ※ 全体の在籍期間が1年以内であれば、他の診療科（呼吸器内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、造血幹細胞移植科、先端医療科、病理診断科等）と組み合わせた研修も可能
	研修の特色	・研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です ・これまで多くの短期研修医は、終了後にも研究活動を継続して、学会発表や論文発表することができています。

肝胆膵内科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・消化器病専門医、がん薬物療法専門医（薬物療法希望時）、消化器内視鏡専門医（胆膵内視鏡希望時）取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・肝胆膵悪性腫瘍領域における治療開発等、高度な知識、技能を習得する ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者 ・機会に応じて、臨床試験、医師主導治験の事務局を担当する ・ドレナージ治療戦略を立案し、Interventional EUS を含む全ての胆膵内視鏡の手法を術者として完遂できる（胆膵内視鏡を希望の場合）
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は肝胆膵内科、1年間は自由選択 ※ 肝胆膵内科以外の1年間は診療を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能 ※ 肝胆膵内科の研修期間のうち、薬物療法のみを選択することも可能。薬物療法を主に選択される場合は、肝胆膵内視鏡の手法・入院患者を担当する必要はない。肝胆膵内視鏡を主に選択される場合は、肝胆膵内視鏡の手法・入院患者の受け持ちが必須。
	研修の特色	一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象としたコースです

レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：がん薬物療法専門医、他、消化器病・消化器内視鏡専門医 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者、臨床試験の立案 ・ドレナージ治療戦略を自ら立案し、多くの胆膵内視鏡の手法を術者として完遂できる（胆膵内視鏡を希望の場合）
	研修内容	研修期間のうち1年以上肝胆膵内科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 消化管内科、呼吸器内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、先端医療科、病理診断科、消化器内視鏡、放射線治療科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※ 原則として2年目以降に日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修を行う ※ 肝胆膵内科の研修期間のうち、薬物療法のみを選択することも可能。薬物療法を主に選択される場合は、肝胆膵内視鏡の手法・入院患者を担当する必要はない。肝胆膵内視鏡を主に選択される場合は、肝胆膵内視鏡の手法・入院患者の受け持ちが必須。
	研修の特色	肝胆膵領域の悪性疾患に対する化学療法、内視鏡検査・治療を中心に幅広い診療経験をつむことが可能です ※ 診療内容：肝細胞癌、胆道癌、肝癌、肝胆膵領域の神経内分泌腫瘍などの診断・治療・化学療法・内視鏡検査（ERCP,EUS） 国内・国外学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています

レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・がん薬物療法専門医、消化器病・消化器内視鏡専門医の両方、あるいはいずれかの取得を目標としています ・機会に応じて、国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者 ・ドレナージ治療戦略を自ら立案し、多くの胆膵内視鏡の手法を術者として完遂できる（胆膵内視鏡を希望の場合）
	研修内容	研修期間のうち1年以上肝胆膵内科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 消化管内科、呼吸器内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、先端医療科、病理診断科、消化器内視鏡、放射線治療科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※ 原則として2年目に日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修を行う ※ 肝胆膵内科の研修期間のうち、薬物療法のみを選択することも可能。薬物療法を主に選択される場合は、肝胆膵内視鏡の手法・入院患者を担当する必要はない。肝胆膵内視鏡を主に選択される場合は、肝胆膵内視鏡の手法・入院患者の受け持ちが必須。
	研修の特色	肝胆膵内科を中心に診療経験をつむことが可能です 化学療法、肝胆膵に関わる内視鏡検査・治療（主に胆膵内視鏡）にも携わる多くの機会を得られます。 国内・国外学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会もあります

連携大学院 コース	対象者	レジデント3年コースまたは2年コースに準ずる
	研修目標	・専門医取得：がん薬物療法専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡など ・学位取得：大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	レジデント3年コースもしくは2コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです 連携大学院制度を用いた学位取得を意識して、1年目から研究の指導を受けられます ※ 前半の3年もしくは2年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※ 後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません
	研修の特色	がん薬物療法専門医、肝胆膵系専門医取得と同時に、学位取得を目指すコースです 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です

レジデント 短期コース	対象者	原則として総合内科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、肝胆膵領域の基本的な診療経験を積むことを目標としています ・肝胆膵領域の化学療法を学ぶ ・胆膵内視鏡の診断、治療。技量に応じて術者としても施行して頂きます
	研修内容	肝胆膵内科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする ※ 全体の在籍期間が1年以内であれば、他の診療科（消化管内科、呼吸器内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、造血幹細胞移植科、先端医療科、病理診断科等）と組み合わせた研修も可能 ※ 肝胆膵内科の研修期間のうち、薬物療法のみを選択することも可能。薬物療法を主に選択される場合は、肝胆膵内視鏡の手法・入院患者を担当する必要はない。肝胆膵内視鏡を主に選択される場合は、肝胆膵内視鏡の手法・入院患者の受け持ちが必須。
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

●他科と連携したコース

消化器内科総合 コース	消化器内科全般を極めたい人向けのコースです。 ※対象者等詳細は「消化器内科総合」のページもご参照ください
内視鏡エキスパート コース	消化器内視鏡全般を極めたい人向けのコースです。 ※対象者等詳細は「内視鏡エキスパートコース」のページもご参照ください

消化器内科総合（消化管＋肝胆膵）

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・がん薬物療法専門医または消化器病専門医、消化器内視鏡専門医取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・消化器悪性腫瘍領域における治療開発等、高度な知識、技能を習得する ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者 ・機会に応じて、臨床試験、医師主導治験の事務局を担当する
	研修内容	2年間の研修期間のうち9か月消化管内科、9か月肝胆膵内科、6か月は自由選択 ※ 6か月は診療を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能
	研修の特色	一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象としたコースです

レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：がん薬物療法専門医、消化器病・消化器内視鏡専門医、他 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者、臨床試験の立案
	研修内容	研修期間のうち6か月以上消化管内科、6か月以上肝胆膵内科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 呼吸器内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、先端医療科、病理診断科、消化器内視鏡、放射線治療科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※ 原則として2年目以降に日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修を行う
	研修の特色	消化器領域の悪性疾患に対する化学療法、内視鏡検査・治療を中心に幅広い診療経験をつむことが可能です ※ 診療内容：消化器がんの診断・治療・化学療法・内視鏡検査（超音波内視鏡を含む内視鏡検査・処置）・生検、ラジオ波焼灼療法、エタノール局注療法などに携わる十分な機会があります。 国内・国外学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています

レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・がん薬物療法専門医、消化器病・消化器内視鏡専門医の両方、あるいはいずれかの取得を目標としています ・機会に応じて、国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち6か月以上消化管内科、6か月以上肝胆膵内科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 消化管内科、呼吸器内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、先端医療科、病理診断科、消化器内視鏡、放射線治療科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※ 原則として2年目に日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修を行う
	研修の特色	消化器腫瘍を中心に診療経験を積み上げることが可能です 化学療法、内視鏡検査・治療、経皮的処置（生検、ラジオ波焼灼療法、エタノール局注療法など）にも携わる多くの機会を得られます。 国内・国外学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会もあります

連携大学院 コース	対象者	レジデント3年コースまたは2年コースに準ずる
	研修目標	・専門医取得：がん薬物療法専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡など ・学位取得：大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	レジデント3年コースもしくは2コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです 連携大学院制度を用いた学位取得を意識して、1年目から研究の指導を受けられます ※ 前半の3年もしくは2年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※ 後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません
	研修の特色	がん薬物療法専門医、消化器系専門医取得と同時に、学位取得を目指すコースです 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です

レジデント 短期コース	対象者	原則として総合内科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、消化器領域の基本的な診療経験を積むことを目標としています ・消化器領域の化学療法を学ぶ ・内視鏡を中心とした処置の適応を学ぶ
	研修内容	消化管内科、肝胆膵内科の各々に、3か月、6か月の期間在籍します（全体の在籍期間は最短6か月から最長1年） ※ 全体の在籍期間が1年であれば、他の診療科（呼吸器内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、造血幹細胞移植科、先端医療科、病理診断科等）と組み合わせた研修も可能
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

乳 腺 ・ 腫 瘍 内 科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・ 当センターのレジデント修了者 ・ 内科系・外科系の関連するサブスペシャリティ領域専門医等取得済みまたは取得見込み ・ 上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・ 腫瘍内科療領域における治療・治療開発等、高度な知識、技能を習得する ・ 研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者 ・ 機会に応じて、臨床試験、医師主導治験の事務局を担当する
	研修内容	2年間の研修期間のうち前半の1年間は乳腺・腫瘍内科、後半の1年間は外来診療を担当しながら、治験、トランスレーショナル・リサーチや、がん薬物療法専門医取得のため等、他科のローテーションなど希望に応じた研修が可能
	研修の特色	乳腺・腫瘍内科研修で最も推奨されるコースです。乳癌、婦人科癌、肉腫やその他希少がんに関する臨床、研究、教育能力を高めることで、臓器横断的な腫瘍内科医のリーダとして活躍できる人材を育成する総合的なプログラムです

レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・ 採用時に医師免許取得後3年目以降 ・ 総合内科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・ 専門医取得：がん薬物療法専門医、乳腺専門医など ・ 研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上乳腺・腫瘍内科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 消化管内科、肝胆膵内科、呼吸器内科、血液腫瘍科、先端医療科、病理診断科、放射線治療科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※ 原則として2年目以降に日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修を行う
	研修の特色	乳腺・腫瘍内科では乳がん、婦人科がん、希少がん（肉腫、胚細胞腫瘍、原発不明がんなど）、がん診療を幅広く経験し、他科のローテーションも含めて、腫瘍内科医としての土台を築くことが出来ます。 ※ 3年在籍者の経験症例数の1例:乳腺・腫瘍内科（乳癌、卵巣がん、子宮頸癌、頭頸部癌、胚細胞腫瘍、肉腫、NEC、NET）206例、肺癌80例、血液40例、消化器38例 国際学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています

乳腺薬物療法 レジデント 2年コース	対象者	原則として下記の全ての条件を満たした医師を対象としています ・ 採用時に医師免許取得後3年目以降 ・ 内科系、外科系の専門医などを取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・ がん薬物療法専門医、乳腺専門医など ・ 機会に応じて、国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上乳腺・腫瘍内科に在籍し（1カ月程度の外来研修含む）、それ以外の期間は自由選択 ※ 乳腺外科、病理診断科、放射線診断科、消化管内科、肝胆膵内科、呼吸器内科、血液腫瘍科、先端医療科、放射線治療科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※ 原則として2年目に日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修を行う
	研修の特色	乳癌を中心に、乳癌以外にも乳腺・腫瘍内科で担当する疾患の薬物療法を通して、薬物療法の知識・経験を高めます。希望に応じて乳癌診療に関連する科のローテーションも行えます。

婦人科腫瘍 薬物療法 レジデント 2年コース	対象者	原則として下記の全ての条件を満たした医師を対象としています ・ 採用時に医師免許取得後3年目以降 ・ 内科系、外科系、婦人科系の専門医などを取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・ がん薬物療法専門医、婦人科腫瘍専門医など ・ 機会に応じて、国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上乳腺・腫瘍内科に在籍し（1カ月程度の外来研修含む）、それ以外の期間は自由選択 ※ 婦人腫瘍科、病理診断科、放射線診断科、消化管内科、肝胆膵内科、呼吸器内科、血液腫瘍科、先端医療科、放射線治療科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※ 原則として2年目に日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修を行う
	研修の特色	婦人科がんを中心に、婦人科がん以外にも乳腺・腫瘍内科で担当する疾患の薬物療法を通して、薬物療法の知識・経験を高めます。希望に応じて婦人科腫瘍の診療に関連する科のローテーションも行えます。

腫瘍内科 レジデント 2年コース	対象者	原則として下記の全ての条件を満たした医師を対象としています ・ 採用時に医師免許取得後3年目以降 ・ 内科系、外科系の専門医などを取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・ がん薬物療法専門医など ・ 機会に応じて、国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上乳腺・腫瘍内科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 病理診断科、放射線診断科、消化管内科、肝胆膵内科、呼吸器内科、血液腫瘍科、先端医療科、放射線治療科、その他外科系診療科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※ 原則として2年目に日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修を行う
	研修の特色	希少がん（肉腫やその他の希少がん）や原発不明がんなどから希望の疾患を中心に、それ以外にも乳腺・腫瘍内科で担当する疾患の薬物療法を通して、薬物療法の知識・経験を高めます。希望に応じて考慮し関連する科のローテーションも行えます。

連携大学院 コース	対象者	レジデント3年コースまたは2年コースに準ずる
	研修目標	・ 専門医取得：がん薬物療法専門医、乳腺専門医など ・ 学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・ 研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	レジデント3年コースもしくは2年コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられます ※ 前半の3年もしくは2年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※ 後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません
	研修の特色	がん薬物療法専門医等の取得と同時に、学位取得を目指すコースです 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です

レジデント 短期コース	対象者	原則として総合内科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、腫瘍内科腫瘍の基本的な診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	乳腺・腫瘍内科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする ※ 全体の在籍期間が1年以内であれば、他の診療科（消化管内科、肝胆膵内科、呼吸器内科、血液腫瘍科、造血幹細胞移植科、先端医療科、病理診断科等）と組み合わせた研修も可能
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

血 液 腫 瘍 科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・ 当センターのレジデント修了者 ・ がん薬物療法専門医または血液専門医取得済みまたは取得見込み ・ 上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・ 血液腫瘍領域における治療開発を含む高度な知識、技能を習得する ・ チーム診療の中心としての指導力を身につける ・ 研究：国内・国際学会での筆頭演者、peer review journal での筆頭著者 ・ 機会に応じて、臨床試験、医師主導治験の事務局を担当する
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は血液腫瘍科、1年間は自由選択 ※ 血液腫瘍科以外の1年間は診療を離れ、病理診断科・研究所等で臨床・基礎研究に特化した研修が可能（希望研修先との調整が必要となる）
	研修の特色	すでに血液腫瘍に対する一定レベル以上の診療経験と実績を有する医師を対象としたコースです

レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・ 採用時に医師免許取得後3年目以降 ・ 総合内科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・ 専門医取得：血液専門医 ・ 研究：国内・国際学会での筆頭演者、peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち血液腫瘍科を1年以上ローテーションする。 上記以外の期間は自由選択 ※ 造血幹細胞移植科、呼吸器内科、消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、病理診断科等の希望診療科における研修が可能（1診療科3ヶ月を原則とする） ※ 原則として日本血液学会血液専門医カリキュラムに則った研修を行う
	研修の特色	血液腫瘍に対する専門的な研修を希望される方に最も推奨されるコースです 血液腫瘍科を中心に幅広い診療経験を積むことが可能であり、造血幹細胞移植を含む標準的薬物療法を広く学ぶことができます ※ 1年間経験症例数（例）：悪性リンパ腫54例、白血病22件、多発性骨髄腫4例 国内・国際学会、peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も確保されています ※ 研究活動（例）：国際学会1回、国内学会1回、英文論文1篇（血液腫瘍指導のみ）

レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・ 採用時に医師免許取得後3年目以降 ・ 総合内科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・ 血液専門医の取得を目標とする ・ 機会に応じて、国内・国際学会での筆頭演者、peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち血液腫瘍科を1年以上ローテーションする 上記以外の期間は自由選択 ※ 造血幹細胞移植科、呼吸器内科、消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、病理診断科等の希望診療科における研修が可能（1診療科3ヶ月を原則とする） ※ 原則として日本血液学会血液専門医カリキュラムに則った研修を行う
	研修の特色	血液腫瘍科を中心に診療経験を積むことが可能です 機会に応じて国内・国際学会、peer review journal 論文執筆等の研究活動も可能です

レジデント 短期コース	対象者	原則として総合内科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、血液腫瘍に特化した診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	血液腫瘍科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする ※ 1年レジデントコースであれば、研修開始前に希望があれば、両科の調整により3ヶ月間の造血幹細胞移植科のローテーションが可能である。
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて研修期間の選択が可能です

造 血 幹 細 胞 移 植 科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・ 当センターのレジデント修了者 ・ 関連するサブスペシャリティ領域専門医等取得済みまたは取得見込み ・ 上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・ 造血幹細胞移植分野の臨床研究を指導する人材の育成 ・ 研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は造血幹細胞移植科、1年間は自由選択 ※ 造血幹細胞移植科以外の1年間は診療を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能
	研修の特色	一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象としたコースです

レジデント 3年コース・ 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・ 採用時に医師免許取得後3年目以降 ・ 総合内科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・ 造血幹細胞移植専門医の取得を目標としています ・ 機会に応じて、学会発表、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上造血幹細胞移植科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、先端医療科、病理診断科、呼吸器内視鏡、放射線治療科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする）
	研修の特色	造血幹細胞移植科を中心に診療経験を積むことが可能です

レジデント 短期コース	対象者	原則として内科学会総合内科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、造血幹細胞移植の基本的な診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	造血幹細胞移植科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする ※ 血液腫瘍科と組み合わせた研修も可能
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

先端医療科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・がん薬物療法専門医等取得済みまたは取得見込み ・5年以上の臨床経験を有し、レジデント3年・2年コース修了者に相当する学識を有する医師 ・がん早期新薬開発に強い興味をもつ医師
	研修目標	・第Ⅰ相試験を中心にがん早期新薬開発における高度な知識・技能習得を目指す ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者 ・機会に応じて、海外研究者等との国際連携機会を得る事が可能
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は先端医療科、1年間は自由選択 ※ 先端医療科以外の1年間は臨床を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能 ※ 新薬開発に特化したより高度な研修内容を習得可能である2年間の先端医療科選択も可能
	研修の特色	がん新薬早期開発において最もお勤めの研修プログラムです。研修年限は2年で、新薬の第Ⅰ相試験を中心に早期開発における知識・技術の習得により、日本のがん早期新薬開発を将来的に牽引し、グローバルレベルの国際的競争力を兼ね備えた次世代リーダー人材育成を行います。希望者には研究所等でのトランスレーショナルリサーチ（TR）および海外研究者等との国際交流・共同研究等の機会をサポートします。

レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・がん早期新薬開発に強い興味をもつ医師
	研修目標	・専門医取得：がん薬物療法専門医・総合内科専門医など ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者 ・第Ⅰ相試験を中心にがん新薬早期開発における基本的知識・技術の習得
	研修内容	研修期間のうち1年以上先端医療科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 呼吸器内科、消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、病理診断科、呼吸器内視鏡、放射線治療科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※ 原則として2年目以降に日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修を行う
	研修の特色	先端医療科研修で最も推奨される基本コースです 先端医療科（第Ⅰ相試験 / がん新薬早期開発）を中心に幅広い診療経験が可能です 第Ⅰ相試験やTRを中心にがん新薬早期開発における基本的知識・技術の習得を目指します 国際学会、Peer review journal論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています

レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・がん早期新薬開発に強い興味をもつ医師
	研修目標	・がん薬物療法専門医・総合内科専門医などの取得を目標としています ・機会に応じて、国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者 ・第Ⅰ相試験を中心にがん新薬早期開発における基本的知識・技術の習得
	研修内容	研修期間のうち1年以上先端医療科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 呼吸器内科、消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、病理診断科、呼吸器内視鏡、放射線治療科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※ 原則として2年目に日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修を行う
	研修の特色	先端医療科（第Ⅰ相試験 / がん新薬早期開発）を中心に診療経験をつむことが可能です 第Ⅰ相試験やTRを中心にがん新薬早期開発における基本的知識・技術の習得を目指します

連携大学院 コース (指導者育成一貫 コース)	対象者	原則として下記の全ての条件を満たした医師を対象としています ・採用時に医師免許取得後5年目以降 ・総合内科専門医取得済みもしくは取得見込み ・がん早期新薬開発に強い興味をもつ医師
	研修目標	・専門医取得：がん薬物療法専門医 ・学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・第Ⅰ相試験を中心にがん早期新薬開発における高度な知識・技能習得を目指す ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者 ・機会に応じて、海外研究者等との国際連携機会を得る事が可能
	研修内容	レジデント3年コースもしくは2年コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられます ※ 前半の3年もしくは2年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※ 後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません
	研修の特色	がん新薬早期開発における4-5年一貫性指導者育成コース研修プログラムです。5年以上の臨床経験を有し、新薬早期開発における知識・技術の習得により、日本におけるがん新薬早期開発の次世代指導者育成を行います。TR・基礎研究の知識・技術の習得を視野に、研究所で1年間の研修を行います。レジデント3年・2年コース（新薬開発指導者育成コース）から継続一貫して研修を行うことで、新薬早期開発に必要な知識・技術すべてをカバーでき、世界の主要新薬早期開発リーダーと将来的に共同できるグローバルレベルの次世代リーダー育成を目指した専門的コースです。がん薬物療法専門医取得と同時に、学位取得も目指すコースです。 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です

レジデント 短期コース	対象者	原則として総合内科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする がん早期新薬開発に強い興味をもつ医師
	研修目標	短期間の研修で、第Ⅰ相試験を中心にがん早期新薬開発に関する基本的な診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	先端医療科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする ※ 全体の在籍期間が1年以内であれば、他の診療科（呼吸器内科、消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、造血幹細胞移植科、病理診断科等）と組み合わせた研修も可能
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

小児腫瘍科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・小児血液・がん専門医またはがん薬物療法専門医取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・小児血液・がん領域における治療開発等、高度な知識、技能を習得する ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者 ・機会に応じて、臨床試験、医師主導治験の事務局を担当する
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は小児腫瘍科、1年間は自由選択 ※ 小児腫瘍科以外の1年間は診療を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修も可能
	研修の特色	一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象としたコースです 小児の造血器腫瘍、骨軟部腫瘍、脳腫瘍を含む固形腫瘍等の幅広い診療経験と再発、難治例を中心とした治験・臨床試験等での治療開発の経験をつむことが可能です 経験できる主な疾患：ALL、AML、リンパ腫、その他の造血器腫瘍、横紋筋肉腫、ユーイング肉腫、骨肉腫、網膜芽細胞腫、その他の骨軟部腫瘍、脳腫瘍、その他の希な固形腫瘍など

レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・小児科専門医取得済みもしくは取得見込み（本レジデント初年度に受験予定）
	研修目標	・小児血液・がん学会専門医、がん薬物療法専門医の両方、いずれかの取得を目標としています ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上小児腫瘍科に在籍し、乳腺・腫瘍内科、造血細胞移植科を、各3ヶ月以上ローテーションする 希望により、血液腫瘍科、病理診断科、放射線診断科、その他の科での研修も可能（1診療科3か月を原則とする）
	研修の特色	小児腫瘍科研修で最も推奨されるコースです 小児がんのみならず、腫瘍内科の診療経験をつみ、小児血液・がん専門医のみならず、がん薬物療法専門医も取得することが可能です 小児の造血器腫瘍、骨軟部腫瘍、脳腫瘍を含む固形腫瘍等の幅広い診療経験をつむことが可能です 主な疾患の3年間の症例数：ALL 29例、AML5例、リンパ腫4例、その他の造血器腫瘍5例、横紋筋肉腫16例、ユーイング肉腫16例、骨肉腫32例、網膜芽腫33例、その他の骨軟部腫瘍20例、その他の固形腫瘍22例 国際学会、Peer review journal論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています

レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・小児科専門医取得済みもしくは取得見込み（本レジデント初年度に受験予定）
	研修目標	・小児血液・がん学会専門医、がん薬物療法専門医の両方、いずれかの取得を目標としています ・機会に応じて、国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上小児腫瘍科に在籍し、乳腺・腫瘍内科、造血細胞移植科を、各3ヶ月（最長合計6ヶ月まで延長可能）ローテーションする
	研修の特色	小児がんのみならず、腫瘍内科の診療経験をつみ、小児血液・がん専門医のみならず、がん薬物療法専門医も取得することが可能です 小児の造血器腫瘍、骨軟部腫瘍、脳腫瘍を含む固形腫瘍等の幅広い診療経験をつむことができます 経験できる主な疾患：ALL、AML、リンパ腫、その他の造血器腫瘍、横紋筋肉腫、ユーイング肉腫、骨肉腫、網膜芽細胞腫、その他の骨軟部腫瘍、脳腫瘍、その他の希な固形腫瘍など

連携大学院 コース	対象者	レジデント3年コースまたは2年コースに準ずる
	研修目標	・専門医取得：小児血液・がん専門医、がん薬物療法専門医 ・学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
	研修内容	レジデント3年コースもしくは2年コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられます ※ 前半の3年もしくは2年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※ 後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません
	研修の特色	小児血液・がん専門医、がん薬物療法専門医取得と同時に、学位取得を目指すコースです 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です 小児の造血器腫瘍、骨軟部腫瘍、脳腫瘍を含む固形腫瘍等の幅広い診療経験と治験・臨床試験の経験をつむことが可能です 経験できる主な疾患：ALL、AML、リンパ腫、その他の造血器腫瘍、横紋筋肉腫、ユーイング肉腫、骨肉腫、網膜芽細胞腫、その他の骨軟部腫瘍、脳腫瘍、その他の希な固形腫瘍など

レジデント 短期コース	対象者	原則として小児科学会専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、小児がんの基本的な診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	小児腫瘍科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

頭頸部内科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・がん薬物療法専門医、がん治療認定医、または頭頸部がん専門医のいずれかを取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・頭頸部腫瘍の治療開発に関わる、高度な知識・技能を習得する ・国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者を担当する ・臨床試験・医師主導治験の立案・研究事務局を担当する
	研修内容	初年度には、入院・外来にて頭頸部・食道領域の悪性疾患の多彩な診療経験を積む。2 年度には、頭頸部内科で臨床試験などの研究活動への参加、学会発表や論文執筆を行う。希望に応じて、研究所で Translational Research を学ぶことも可能。臨床試験などの研究の立案を行うことを目標とする。
	研修の特色	研修終了後も、自分自身で研究を立案することのできる医師の育成を目指している。研修中に研究グループなどを通じて他施設の医師とも交流し、研修終了後にも継続して共同研究が出来る人材となることを目標とする。
レジデント 3 年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後 3 年目以降 ・総合内科専門医、または耳鼻咽喉科専門医のいずれかを取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：日本臨床腫瘍学会：がん薬物療法専門医がん治療認定機構：がん治療認定医 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者、臨床試験の立案
	研修内容	初年度は、6 か月以上頭頸部内科で研修を行い、その後 2 年度までに頭頸部外科・食道外科・消化管内科・放射線治療科・放射線診断科（IVR）・病理診断科などの頭頸部腫瘍関連科や専門医取得に必要な臓器別診療科（1 診療科 3 か月を原則）での研修を希望に応じて行う。3 年度は、入院・外来にて頭頸部・食道領域の悪性疾患の診療経験を積み、研究活動も行う。
	研修の特色	頭頸部腫瘍の化学療法の経験を積みたいという外科を専攻する医師の研修も歓迎しています。頭頸部・食道領域の悪性疾患に対する化学療法・化学放射線療法を中心に、幅広い診療経験をつむことが可能です。ニボルマブなどの免疫チェックポイント阻害薬、セツキシマブやマルチターゲットキナーゼ阻害薬などの分子標的薬といった治療も多く経験できます。研究の一環として、研究所で Translational Research を学ぶことも可能です。 ※ 診療：頭頸部・食道悪性腫瘍の診断、治療、新規治療開発（治験）に携わる十分な機会があります ※ 研究：臨床試験の立案、国内・国外学会の筆頭演者、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています
レジデント 2 年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後 3 年目以降 ・総合内科専門医、または耳鼻咽喉科専門医のいずれかを取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：日本臨床腫瘍学会：がん薬物療法専門医がん治療認定機構：がん治療認定医 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち 1 年間は頭頸部内科をローテート（分割による研修も可）し、その他の研修期間を頭頸部外科・食道外科・消化管内科・放射線治療科・放射線診断科（IVR）・病理診断科などの頭頸部腫瘍関連科や専門医取得に必要な臓器別診療科（1 診療科 3 か月を原則）での研修を希望に応じて行う。
	研修の特色	頭頸部腫瘍に対する化学療法の経験を積みたいという外科を専攻する医師の研修も歓迎しています。頭頸部・食道領域の悪性疾患に対する化学療法・化学放射線療法を中心に、幅広い診療経験をつむことが可能です。ニボルマブなどの免疫チェックポイント阻害薬、セツキシマブやマルチターゲットキナーゼ阻害薬などの分子標的薬といった治療も多く経験できます。研究の一環として、研究所で Translational Research を学ぶことも可能です。 ※ 診療：頭頸部・食道悪性腫瘍の診断、治療、新規治療開発（治験）に携わる十分な機会があります ※ 研究：国内・国外学会の筆頭演者、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています
レジデント 短期コース	対象者	原則として基本領域専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする 内科・外科・放射線治療科などの科を問わず、頭頸部腫瘍の化学療法の経験を積みたいと希望する医師を対象とした短期研修です。
	研修目標	短期間の研修で、頭頸部腫瘍の基本的な診療経験を積むことを目標としています ・頭頸部腫瘍の化学療法を学ぶ ・頭頸部腫瘍の治療選択や治療中に必要な処置の適応を学ぶ
	研修内容	頭頸部内科に最短 6 か月から最長 1 年の期間在籍します。 ※ 原則として 3 か月単位とする 初期の 3 か月間は頭頸部内科での研修を必須とします。残りの期間も頭頸部内科での研修を継続できますが、希望に応じて頭頸部外科・食道外科・消化管内科・放射線治療科・放射線診断科（IVR）・病理診断科などの頭頸部腫瘍関連科や専門医取得に必要な臓器別診療科での研修（各科 3 か月程度）を行うこともできます。
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

放射線治療科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・放射線科専門医、関連するサブスペシャリティ領域専門医等取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・放射線治療専門医を取得する ・小線源治療、外部照射、放射線同位元素内用療法などの高度な知識、技能を習得する ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者 ・機会に応じて、臨床試験、医師主導治験の事務局を担当する
	研修内容	2 年間の研修期間のうち 18 か月は放射線治療科、6 か月は自由選択 ※ 放射線治療科以外の 6 か月は診療を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能
	研修の特色	一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象としたコースです
レジデント 3 年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後 3 年目以降 ・基本領域専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：放射線科専門医 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち 1 年以上放射線治療科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 放射線診断科、呼吸器内科、頭頸科、婦人科、消化管内科、肝胆脾内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、先端医療科、病理診断科、呼吸器内視鏡科等の希望診療科も研修可能（1 診療科 3 か月を原則とする） ※ 原則として日本医学放射線学会研修カリキュラムガイドラインに則った研修を行う
	研修の特色	放射線治療科研修で最も推奨されるコースです 組織内照射を中心とした小線源治療や最新の治療装置を用いた外部照射など、あらゆる癌腫の診療経験を つむことが可能です 国際学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています
レジデント 2 年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後 3 年目以降 ・基本領域専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：放射線科専門医 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち 1 年以上放射線治療科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 放射線診断科、呼吸器内科、頭頸科、婦人科、消化管内科、肝胆脾内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、先端医療科、病理診断科、呼吸器内視鏡科等の希望診療科も研修可能（1 診療科 3 か月を原則とする） ※ 原則として日本医学放射線学会研修カリキュラムガイドラインに則った研修を行う
	研修の特色	組織内照射を中心とした小線源治療や最新の治療装置を用いた外部照射など、あらゆる癌腫の診療経験を つむことが可能です 国際学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています
レジデント 短期コース	対象者	原則として放射線科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、悪性腫瘍全体の基本的な診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	放射線治療科に最短 3 か月から最長 1 年の期間在籍します。 ※ 原則として 3 か月単位とする
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です
専攻医コース （連携施設型）	対象者	※放射線科専門医取得のための研修を目的としたコース 以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後 3 年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
	研修目標	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	国立がん研究センター中央病院放射線治療科に、1 年単位、最長 2 年間在籍します 放射線科診断科が連携施設となっている場合には、連続して放射線診断科での研修も可能です
	研修の特色	連携施設で研修を積む他領域の専攻医や指導医と密に連携し、後方支援として貢献できる放射線診療を修得することができます

放射線診断科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・放射線科専門医、関連するサブスペシャリティ領域専門医等取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・放射線診断専門医を取得する ・腫瘍に関する画像診断、IVR に関する高度な知識と手技を習得する ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	2年間の研修期間のうち18 か月は放射線診断科、6 か月間は自由選択 ※ 放射線診断科以外の6 か月間は診療を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能
	研修の特色	一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象としたコースです

レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・基本領域専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：放射線科専門医 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上放射線診断科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 放射線治療科、呼吸器内科、頭頸科、婦人科、消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、先端医療科、病理診断科、呼吸器内視鏡科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※ 原則として日本医学放射線学会研修カリキュラムガイドラインに則った研修を行う
	研修の特色	放射線診断科研修で最も推奨されるコースです CT、MRI、PET などによる画像診断はもとより、IVR の研修も十分に積めます。 国際学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も確保されています

レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・基本領域専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：放射線科専門医 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上放射線診断科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 放射線治療科、呼吸器内科、頭頸科、婦人科、消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、先端医療科、病理診断科、呼吸器内視鏡科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※ 原則として日本医学放射線学会研修カリキュラムガイドラインに則った研修を行う
	研修の特色	CT、MRI、PET などによる画像診断はもとより、IVR の研修も十分に積めます。 国際学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も確保されています

レジデント 短期コース	対象者	原則として放射線科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、悪性腫瘍全体の画像診断や IVR の経験を積むことを目標としています
	研修内容	放射線診断科に最短3 か月から最長1年の期間在籍します ※ 原則として3か月単位とする
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

専攻医コース (連携施設型)	対象者	※放射線科専門医取得のための研修を目的としたコース 以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
	研修目標	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	国立がん研究センター中央病院放射線診断科に、1年単位、最長2年間在籍します 放射線科治療科が連携施設となっている場合には、連続して放射線治療科での研修も可能です
	研修の特色	連携施設で研修を積む他領域の専攻医や指導医と密に連携し、後方支援として貢献できる放射線診療を修得することができます

内視鏡科（呼吸器）

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・気管支鏡専門医取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・呼吸器内視鏡領域における診断・治療開発等、高度な知識、技能を習得する ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者 ・機会に応じて、臨床試験、医師主導治験の事務局を担当する
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は内視鏡科（呼吸器）、1年間は自由選択 ※ 内視鏡科（呼吸器）以外の1年間は診療を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能
	研修の特色	一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象としたコースです

レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・基本領域専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：気管支鏡専門医 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上内視鏡科（呼吸器）に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 他の診療科（呼吸器内科、呼吸器外科、消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、造血幹細胞移植科、先端医療科等）と組み合わせた研修も可能（1診療科3か月を原則とする）
	研修の特色	呼吸器内視鏡を中心に幅広い診療経験をつむことが可能です 国際学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています

レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・基本領域専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・気管支専門医の取得を目標としています ・機会に応じて、国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上内視鏡科（呼吸器）に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 他の診療科（呼吸器内科、呼吸器外科、消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、造血幹細胞移植科、先端医療科等）と組み合わせた研修も可能（1診療科3か月を原則とする）
	研修の特色	呼吸器内視鏡を中心に診療経験をつむことが可能です

連携大学院 コース	対象者	レジデント3年コースまたは2年コースに準ずる
	研修目標	・専門医取得：気管支鏡専門医 ・学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	レジデント3年コースもしくは2年コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられます ※ 前半の3年もしくは2年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※ 後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません
	研修の特色	気管支鏡専門医取得と同時に、学位取得を目指すコースです 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です

レジデント 短期コース	対象者	原則として基本領域専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、呼吸器内視鏡の基本的な診療経験を積むことを目標としています 6ヶ月以上の研修で論文作成を前提とした研究を行います
	研修内容	内視鏡科（呼吸器）に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする ※ 全体の在籍期間が1年以内であれば、他の診療科（呼吸器内科、呼吸器外科、消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、造血幹細胞移植科、先端医療科等）と組み合わせた研修も可能
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

内視鏡科（消化管）

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・消化器内視鏡専門医取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の高度な知識、技能を習得する ・研究：国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者 ・機会に応じて、臨床試験、医師主導治験の計画・実施に参画する
	研修内容	2年間、消化器内視鏡科に特化して、より高度な内視鏡診断・治療を研修する
	研修の特色	基本的な消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の経験と実績を有する医師を対象とし、将来のリーダーを育成するコースです
レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医または外科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本的な知識・技能を習得する ・専門医取得：消化器内視鏡専門医 ・研究：国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
	研修内容	専攻コースは、第1年次初期（2～3ヶ月間）および第2年次後半から第3年次（約18ヶ月間）にかけて消化器内視鏡科を研修する。専攻コース以外のローテーション期間では、病理診断科など診断部門および内科部門が選択可能である
	研修の特色	消化器内視鏡を中心に幅広い診療経験を積み上げることが可能です 内視鏡の基礎となる病理診断科での研修を行います 国内・国際学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています
レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医または外科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本的な知識・技能を習得する ・専門医取得：消化器内視鏡専門医 ・研究：国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
	研修内容	専攻コースは、第1年次初期（2～3ヶ月間）および第1年次後半～第2年次（約12～15ヶ月間）にかけて消化器内視鏡科を研修する。専攻コース以外のローテーション期間では、病理診断科など診断部門および内科部門が選択可能である
	研修の特色	消化器内視鏡を中心に幅広い診療経験を積み上げることが可能です 内視鏡の基礎となる病理診断科での研修を行います 国内・国際学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています
連携大学院 コース	対象者	レジデント3年コースまたは2年コースに準ずる
	研修目標	・消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本から高度な知識、技能を習得すると同時に、学位取得を目指す ・専門医取得：消化器内視鏡専門医 ・学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
	研修内容	レジデント3年コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられます ※ 前半の3年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※ 後半の2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません
	研修の特色	消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本から高度な知識、技能を習得すると同時に、学位取得を目指すコースです 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です
レジデント 短期コース	対象者	原則として総合内科専門医または外科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	3か月から2年未満の任意の研修期間（3か月毎）で、消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療に特化し、研修期間に応じた知識・技能を習得する 1年以上の研修で論文作成を前提とした研究を行います
	研修内容	内視鏡科（消化器）に最短3か月から最長2年未満の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

内視鏡エキスパートコース

レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医または外科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	消化管および胆膵内視鏡の専門的な知識・技能を習得する
	研修内容	第1年次初期（2～3ヶ月間）に消化器内視鏡科を研修し、その後は希望の科を希望の期間研修する。ただし各々の科は最低6ヶ月はローテートする。また病理診断科など短期間ローテートも可能である。肝胆膵内科では胆膵内視鏡の検査、治療が主たる目的の入院患者を主に担当しながら、検査、治療全体に携わる。また消化管内視鏡科ローテート中に肝胆膵内科において貴重な手技がある際にはその日肝胆膵内科に従事することも可能とする（ただし消化管内視鏡科では週間予定が決まっているので前の週までに週間予定担当医に申し出ることが必要）。
	研修の特色	がんの特化した高度専門医療機関で、消化器に関わる内視鏡診断・治療を網羅した研修を行います
レジデント 短期コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・総合内科専門医または外科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	消化管および胆膵内視鏡の専門的な知識・技能を習得する
	研修内容	第1年次初期（2～3ヶ月間）に消化器内視鏡科を研修し、その後は希望の科を希望の期間研修する。ただし各々の科は全期間の最低1/4はローテートする。基本その他の科のローテートはしない。肝胆膵内科では胆膵内視鏡の検査、治療が主たる目的の入院患者を主に担当しながら、検査、治療全体に携わる。また消化管内視鏡科ローテート中に肝胆膵内科において貴重な手技がある際にはその日肝胆膵内科に従事することも可能とする（ただし消化管内視鏡科では週間予定が決まっているので前の週までに週間予定担当医に申し出ることが必要）。 ※原則として3か月単位とする
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

緩和医療科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する緩和ケアと臨床腫瘍学に関する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・緩和医療認定医・専門医取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・緩和・支持療法領域における治療開発等、高度な知識、技能を習得する ・研究：国際学会での筆頭演者、査読付き英文誌での筆頭著者 ・臨床試験、医師主導治験の事務局を担当する
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は緩和医療科、1年間は自由選択 ※ 緩和医療科以外の1年間は、他診療科での研修や、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能
	研修の特色	一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とし、臨床と研究のさらなるスキルアップが目標のコースです
レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医など基本領域の専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：日本緩和医療学会緩和医療認定医または専門医 ・能力に応じて国内外の学会での筆頭演者、査読付き英文誌での筆頭著者
	研修内容	1年6か月以上緩和医療科に在籍する。それ以外の期間は自由選択 ※ 精神腫瘍科、放射線診断科、消化管内科、呼吸器内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、放射線治療科等の希望する腫瘍関連診療科の研修が可能。 ※ 本コース研修期間をもって緩和医療認定医・専門医を取得する場合は、2年間の緩和医療に関する専門研修の必要があるため、2年間の緩和医療科在籍または、関連する診療科・緩和ケア病棟や在宅など専門院外研修を選択する必要があります（応相談）。
	研修の特色	がん診療における緩和ケアを学ぶための推奨されるコースです 緩和医療専門医にふさわしい診療経験を積み上げることが可能です。 国際学会、論文執筆等の研究活動も経験できます
レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医など基本領域の専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・日本緩和医療学会認定医または専門医の取得を目標としています ・能力に応じて、国内外の学会での筆頭演者、査読付き英文誌での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち18カ月以上緩和医療科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 精神腫瘍科、放射線診断科、消化管内科、呼吸器内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、放射線治療科等の希望診療科も研修可能。 ※ 本コース研修期間をもって緩和医療認定医・専門医を取得する場合は、2年間の緩和医療に関する専門研修の必要があるため、2年間の緩和医療科在籍または、関連する診療科・緩和ケア病棟や在宅など専門院外研修を選択する必要があります（応相談）。
	研修の特色	がん緩和ケアを中心に診療経験を積み上げることが可能です
連携大学院 コース	対象者	レジデント3年コースまたは2年コースに準ずる
	研修目標	・専門医取得：日本緩和医療学会認定医または専門医 ・学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国際学会での筆頭演者、査読付き英文誌での筆頭著者
	研修内容	レジデント3年コースもしくは2年コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられます ※ 前半の3年もしくは2年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※ 後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は任意研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません
	研修の特色	緩和医療認定医または専門医取得と並行して、学位取得を目指すコースです 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です
レジデント 短期コース	対象者	原則として内科学会総合内科専門医など基本領域の専門医取得済みもしくは取得見込みで専門的緩和ケアの研修を希望する医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、がん緩和ケアの基本的な診療経験を積み上げることが目標としています 緩和医療認定医・専門医取得のために必要なスキルを学ぶことができます。 緩和ケアチーム医師としての診療を学ぶことも可能です。
	研修内容	緩和医療科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする ※ 全体の在籍期間が1年以内であれば、他の診療科（精神腫瘍科、消化管内科、呼吸器内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、造血幹細胞移植科、先端医療科、病理診断科等）と組み合わせた研修も可能 ※ 緩和医療認定医・専門医を取得する場合は、2年間の認定研修施設での緩和医療に関する専門研修の必要があるため、他の診療科での研修を希望する場合はこれまでの研修期間をふまえて検討してください。
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

精神腫瘍科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・日本総合病院精神科専門医および日本サイコオンコロジー学会認定登録精神腫瘍医のいずれかを取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・精神腫瘍領域における治療開発等、高度な知識、技能を習得する ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者 ・機会に応じて、臨床試験の事務局を担当する
	研修内容	高度な臨床経験を積むだけでなく、積極的に研究プロジェクトへの参画を推奨する。
	研修の特色	精神腫瘍学のスペシャリストを養成するコースです。
レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・基本領域専門医取得済みもしくは取得見込み ・日本総合病院精神科専門医および日本サイコオンコロジー学会認定登録精神腫瘍医の取得を目指すもの
	研修目標	・精神腫瘍医としてあらゆる臨床場面に対応できる臨床能力を得る ・関連部門のローテーションを通じて、がん医療に精通する。 ・EBMに精通し、研究にもコミットする ・日本総合病院精神科専門医および日本サイコオンコロジー学会認定登録精神腫瘍を取得する
	研修内容	必須ローテーション以外は自由選択であるが、緩和医療科に3か月程度ローテートすることを推奨する。
	研修の特色	我が国でもっとも症例数が多い緩和ケアチームの一員として、十分な臨床経験を積むことが可能。 国際学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています
レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・基本領域専門医取得済みもしくは取得見込み ・日本総合病院精神科専門医および日本サイコオンコロジー学会認定登録精神腫瘍医の取得を目指すもの
	研修目標	・精神腫瘍医としてあらゆる臨床場面に対応できる臨床能力を得る ・関連部門のローテーションを通じて、がん医療に精通する。 ・日本総合病院精神科専門医および日本サイコオンコロジー学会認定登録精神腫瘍を取得する
	研修内容	必須ローテーション以外は自由選択であるが、緩和医療科に3か月程度ローテートすることを推奨する。
	研修の特色	我が国でもっとも症例数が多い緩和ケアチームの一員として、十分な臨床経験を積むことが可能。 3年コースに比べ、より臨床経験に特化したものとなっております。
レジデント 短期コース	対象者	原則として基本領域専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする 一般精神医学の経験はあるが、精神腫瘍学の経験を十分に積みたいもの
	研修目標	短期間の研修で、精神腫瘍学に関する診療経験を積むことを目標とする
	研修内容	精神腫瘍科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする ※ 全体の在籍期間が1年以内であれば、他の診療科（緩和医療科、内科各科等）と組み合わせた研修も可能
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です。
専攻医 コース (連携施設型)	対象者	※日本精神神経学会専門医取得のための研修を目的としたコース 以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
	研修目標	短期間の研修で、精神腫瘍学に関する診療経験を積むことを目標とする
	研修内容	精神腫瘍科に3か月、6か月、9か月、1年間在籍します。
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

外科総合

レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・日本外科学会専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：消化器外科専門医、呼吸器外科専門医、乳腺認定医、大腸肛門病学会専門医、マンモグラフィ読影認定医 ・研究：国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	呼吸器外科、胃外科、大腸外科、食道外科、肝胆脾外科、乳腺外科のうち3-6科を、各3ヶ月以上ローテーションする。このうち、重点を置く科を一つ選択する。 原則として1年目は外科6科以外をローテーションする（CCM含む）。その他の期間は自由選択 ※ 原則として、日本外科学会教育研修プログラムに則った研修を行う
	手術経験数	呼吸器外科：レジデントはそれぞれ週5-6件の手術を担当医として受け持ち、豊富な手術経験を積むことが可能です。 胃外科：開腹・腹腔鏡ともに十分な経験が積めます。 大腸外科：開腹・腹腔鏡手術ともに十分な執刀経験が積み、ロボット手術手技も助手を通じて学びます。 食道外科：頸部郭清を中心に腹部と胸部操作の助手及びカメラ操作を指導します。 肝胆脾外科：3か月間で肝切除1～3例を執刀することを目指します。肝胆脾領域の画像診断、周術期管理を経験し、肝胆脾外科手術の助手を通じて手技を学びます。6か月間以上ではこの倍以上の経験となります。 乳腺外科：術者としてローテーション期間1単位（3か月間）で約30症例を執刀します。
専攻医コース (連携施設型)	対象者	※日本外科学会専門医取得のための研修を目的としたコース以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
	研修目標	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標とする。
	研修内容	国立がん研究センター中央病院に、3か月単位、最長2年間在籍する。 呼吸器外科、胃外科、大腸外科、食道外科、肝胆脾外科、乳腺外科等の診療科を、各科最短3か月単位でローテーションする。
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です。

呼吸器外科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・日本呼吸器外科学会専門医取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・肺癌を中心とする胸部悪性腫瘍における手術治療、集学的治療、周術期管理等、高度な知識、技能を習得する ・呼吸器外科専門医の取得（未取得の場合） ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は呼吸器外科、1年間は自由選択 ※ 呼吸器外科以外の1年間は診療を離れ、病理診断科、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能
	研修の特色	
レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・日本外科学会専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：呼吸器外科専門医 ・機会に応じて、国内全国学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上呼吸器外科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 呼吸器内科、放射線治療科、放射線診断科、病理診断科、内視鏡科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする）
	研修の特色	肺癌手術件数全国1位である当院で、幅広く胸部悪性腫瘍手術に関する研修が可能です。また積極的に学会活動や執筆活動を経験して頂きます。希望により中央病院以外でも研修が可能です。
連携大学院 コース	対象者	レジデント3年コースまたは2年コースに準ずる
	研修目標	・専門医取得：呼吸器外科専門医 ・学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	3年もしくは2年のレジデントコースに、連携大学院制度（4年）を組み合わせたプログラムです。 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられます。 ※ 前半の3年もしくは2年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※ レジデント3年コースもしくは2年コース終了後の大学院在籍期間（1-2年）は、がん専門修練医（2年）、レジデント（1年）もしくは任意研修生（1-2年）として中央病院に所属します ※ 他コースへの採用には、再度選考試験があります。不採用者は研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません
	研修の特色	呼吸器外科専門医取得と同時に、学位取得を目指すコースです。 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です。
レジデント 短期コース	対象者	原則として外科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、肺癌を中心とする胸部悪性腫瘍の基本的な診療経験を積むことを目標とする
	研修内容	呼吸器外科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする ※ 全体の在籍期間が1年以内であれば、他の診療科（胃外科、大腸外科、肝胆脾外科、乳腺外科、頭頸部外科、病理診断科、消化器内科、内視鏡科、放射線治療科等）と組み合わせた研修も可能
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です。

食道外科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・日本消化器外科学会専門医および食道認定医取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・食道癌における手術治療、集学的治療、周術期管理等、高度な知識、技能を習得する ・食道外科専門医、内視鏡外科学会技術認定医の取得 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は食道外科、1年間は自由選択 ※ 食道外科以外の1年間は診療を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能
	手術経験数	手技の達成度により、頸部郭清から腹腔鏡下胃管再建を指導しますが、本コースは基本的に腹部操作ができる医師のコースであるため、胸腔鏡下食道切除を重点的に指導する。 腹部操作：20 例以上 胸部操作：10 例程度
	研修の特色	High volume center である当院で、胸腔鏡・腹腔鏡手術をはじめ幅広く食道癌手術に関する研修が可能です。日本内視鏡外科学会技術認定医の取得を目標に研修を積んで頂きます。また積極的に学会活動や執筆活動を経験して頂きます。希望により東病院食道外科でも研修が可能です。

レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・日本外科学会専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：消化器外科専門医、食道認定医 ・機会に応じて、国内全国学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上食道外科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 胃外科、大腸外科、肝胆脾外科、乳腺外科、頭頸部外科、病理診断科、消化器内科、内視鏡科、放射線治療科等の希望診療科も研修可能（1 診療科 3 か月を原則とする
	手術経験数	手技の達成度により、頸部郭清から指導を行い、腹腔鏡下胃管再建さらには胸腔鏡下食道切除の術者となることも可能です。 頸部郭清：20 例以上 腹部操作：10 例以上 胸部操作：1 例程度
	研修の特色	High volume center である当科で、胸腔鏡・腹腔鏡手術をはじめ幅広く食道癌手術に関する研修が可能です。また積極的に学会活動や執筆活動を経験して頂きます。希望により東病院食道外科での研修が可能です。

連携大学院 コース	対象者	・レジデント3年コースまたは2年コースに準ずる
	研修目標	・専門医取得：消化器外科専門医、食道認定医、食道外科専門医、内視鏡外科技術認定医 ・学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	3年もしくは2年の正規コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです。 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられます。 ※ 前半の3年もしくは2年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※ 後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は任意研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません
	手術経験数	レジデント2年コースとがん専門修練医に準ずる
	研修の特色	消化器外科専門医、食道科認定医、食道外科専門医、内視鏡外科技術認定医取得と同時に、学位取得を目指すコースです。 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です。

レジデント 短期コース	対象者	原則として外科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、食道癌の基本的な診療経験を積むことを目標とする
	研修内容	食道外科に最短3か月から最長2年未満の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする ※ 全体の在籍期間が1年以内であれば、他の診療科（胃外科、大腸外科、肝胆脾外科、乳腺外科、頭頸部外科、病理診断科、消化器内科、内視鏡科、放射線治療科等）と組み合わせた研修も可能 ※ 基本的には、手術見学および助手のみの研修となります
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

胃外科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・日本消化器外科学会専門医取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・胃癌における手術治療、集学的治療、周術期管理等、高度な知識、技能を習得する ・内視鏡外科学会技術認定医の取得 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は胃外科臨床、1年間は自由選択 ※ 胃外科以外の1年間は臨床を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能
	手術経験数	手技の達成度により、早期から進行胃癌に対する開腹胃切除のすべての術式を術者として経験する。早期胃癌に対する腹腔鏡下胃切除を術者として行う。 術者 約80 件 / 年 助手 約160 件 / 年
	研修の特色	High volume center である当院で、開腹・腹腔鏡手術ともに幅広くすべての胃癌手術に関する研修が可能です。腹腔鏡手術に関しては日本内視鏡外科学会技術認定医の取得を目標に研修を積んで頂きます。また積極的に学会活動や執筆活動を経験して頂きます。希望により東病院胃外科でも研修が可能です。

レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・日本外科学会専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：消化器外科専門医 ・機会に応じて、国内全国学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上胃外科に在籍する。 ※ 胃がん外科での1年間の研修と集中治療等研修2か月間のほか、関連科をローテーション研修することが可能（1診療科3か月を原則とする）
	手術経験数	手技の達成度により、開腹幽門側胃切除・胃全摘から指導を行い、腹腔鏡下胃切除の術者となることも可能です。 術者 約40 件 / 年 助手 約120 件 / 年 胃外科ローテーションの期間により経験数は増加する。
	研修の特色	High volume center である当科で、開腹・腹腔鏡手術をはじめ幅広く胃癌手術に関する研修が可能です。また積極的に学会活動や執筆活動を経験して頂きます。希望により東病院胃外科での研修が可能です。

連携大学院 コース	対象者	・レジデント3年コースまたは2年コースに準ずる
	研修目標	・専門医取得：消化器外科専門医、内視鏡外科技術認定医 ・学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	2年のコースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです。 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられます。 ※ 前半の3年もしくは2年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※ 後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は任意研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません
	手術経験数	レジデント2年コースとがん専門修練医に準ずる
	研修の特色	消化器外科専門医、内視鏡外科技術認定医取得と同時に、学位取得を目指すコースです 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です

レジデント 短期コース	対象者	原則として外科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、胃癌の基本的な診療経験を積むことを目標とする
	研修内容	胃外科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする ※ 全体の在籍期間が1年以内であれば、他の診療科（呼吸器外科、食道外科、大腸外科、肝胆脾外科、乳腺外科、頭頸部外科、病理診断科、消化器内科、内視鏡科、放射線治療科等）と組み合わせた研修も可能 ※ 基本的には、手術見学および助手のみの研修となります
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

大腸外科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・日本消化器外科学会専門医および大腸肛門病学会専門医取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・大腸癌における手術治療、集学的治療、周術期管理等、高度な知識、技能を習得する ・内視鏡外科学会技術認定医の取得 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は大腸外科、1年間は自由選択 ※ 大腸外科以外の1年間は診療を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能 ※ 6か月までは東病院交流研修等、中央病院以外での研修が認められる
	研修の特色	High volume center である当院で、開腹手術、腹腔鏡手術およびロボット支援下手術を含め幅広く大腸癌手術に関する研修が可能です。側方郭清、ISR、骨盤内臓全摘などの高度手術手技の習得および日本内視鏡外科学会技術認定医の取得を目標に研修を積んで頂きます。また積極的に学会活動や執筆活動を経験して頂きます。希望により東病院大腸外科でも研修が可能です。
レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・日本外科学会専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：消化器外科専門医、大腸肛門病学会専門医 ・機会に応じて、国内全国学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	・研修期間のうち1年以上大腸外科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ・食道外科、呼吸器外科、胃外科、肝胆脾外科、婦人科、泌尿器科、病理診断科、消化器内科、内視鏡科、放射線診断科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする）
	研修の特色	3年レジデントコースの後期ローテーションに相当する期間のみを研修するコースです。大腸外科に関しては、high volume center である当院で、開腹手術、腹腔鏡手術およびロボット支援下手術を含め幅広く大腸癌手術に関する研修が可能です。また積極的に学会活動や執筆活動を経験して頂きます。
連携大学院 コース	対象者	・レジデント3年コースまたは2年コースに準ずる
	研修目標	・専門医取得：消化器外科専門医、大腸肛門病学会専門医、内視鏡外科技術認定医 ・学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	3年もしくは2年コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです。 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられます。 ※ 前半の3年もしくは2年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※ 後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は任意研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません
	研修の特色	消化器外科専門医、大腸肛門病学会専門医、内視鏡外科技術認定医取得と同時に、学位取得を目指すコースです 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です
レジデント 短期コース	対象者	原則として外科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、大腸癌の基本的な診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	大腸外科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする ※ 全体の在籍期間が1年以内であれば、他の診療科（胃外科、肝胆脾外科、婦人科、泌尿器科、病理診断科、消化器内科、内視鏡科、）と組み合わせた研修も可能
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

肝胆脾外科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とします ・当センターのレジデント修了者 ・日本消化器外科学会専門医取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師 ・肝胆脾外科高度技能専門医を目指す医師
	研修目標	・肝胆脾領域癌における手術治療、集学的治療、周術期管理等の質の高い知識、技能を習得 ・肝胆脾外科高度技能専門医の取得のために必要症例の半分の経験 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は肝胆脾外科、1年間は自由選択 ※ 2年目も肝胆脾外科の臨床でさらに研鑽を積むことも可能 ※ 肝胆脾外科以外の1年間は診療を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能
	手術経験数	当科予定手術の周術期管理を指揮し、ほとんどの症例で助手として参加します。個々の手技の達成度に合わせて、肝系統切除、脾癌に対する脾体尾部切除、脾頭十二指腸切除術、肝門部胆管癌手術を、自分の力で執刀することを目標とします。 【目標執刀高難度手術症例数】 脾体尾部切除術 5 例 肝系統切除 10 例 脾頭十二指腸切除術 8 例 肝門部胆管癌手術 2 例
レジデント 2年コース	研修の特色	High volume center である当院における研修の中で、代表的高難度手術である脾頭十二指腸切除術、肝門部胆管癌手術を中心に、一般的な肝切除、脾体尾部切除術、腹腔鏡下肝脾切除術・脾中央切除術・LECS（腹腔鏡内視鏡合同手術）などの機能温存低侵襲手術など、幅広い肝胆脾外科手術の研修が可能です。また積極的に学会活動や執筆活動を経験して頂きます。地元の病院やセンター病院の肝胆脾外科を牽引していくリーダーを育てます。
	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とします ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・日本外科学会専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：消化器外科専門医 ・肝胆脾外科高度技能専門医必要症例の半分の経験 ・機会に応じて、国内全国学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上肝胆脾外科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 胃外科、大腸外科、食道外科、乳腺外科、頭頸部外科、病理診断科、消化器内科、内視鏡科、放射線治療科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする）
連携大学院 コース	手術経験数	肝切除術：25 例以上 / 年、脾切除：25 例以上 / 年に助手もしくは執刀医として参加します。 個々の手技の達成度によって、肝部分切除から肝系統切除、脾体尾部切除、さらには脾頭十二指腸切除術の術者となることも可能です。
	研修の特色	High volume center である当院における研修の中で、代表的高難度手術である脾頭十二指腸切除術、肝門部胆管癌手術を中心に、一般的な肝切除、脾体尾部切除術、腹腔鏡下肝脾切除術・脾中央切除術・LECS（腹腔鏡内視鏡合同手術）などの機能温存低侵襲手術など、幅広い肝胆脾外科手術の研修が可能です。また積極的に学会活動や執筆活動を経験して頂きます。希望により他の消化器外科、病理診断科、放射線診断科、東病院肝胆脾外科での研修等も可能です。
	対象者	・レジデント3年コースまたは2年コースに準じます
	研修目標	・専門医取得：消化器外科専門医 ・肝胆脾外科高度技能専門医必要症例の一部の経験 ・学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
レジデント 短期コース	研修内容	3年コースもしくは2年コースの後に、2年のがん専門修練医コースで研修を継続することを想定したプログラムです。 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられます。 ※ 前半の3年もしくは2年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※ 後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません
	手術経験数	レジデント2年コースとがん専門修練医に準じます
	研修の特色	消化器外科専門医の取得し、肝胆脾外科高度技能専門医取得のために必要症例を経験しながら、学位取得を目指すコースです。国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です
	対象者	原則として外科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とします
レジデント 短期コース	研修目標	短期間の研修で、肝胆脾領域癌の基本的な診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	肝胆脾外科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とします ※ 全体の在籍期間が1年以内であれば、他の診療科（食道外科、胃外科、大腸外科、呼吸器外科、乳腺外科、頭頸部外科、病理診断科、消化器内科、内視鏡科、放射線治療科等）と組み合わせた研修も可能 ※ 基本的には、手術見学および助手のみの研修ですが、場合によって症例を担当することもできます。
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

乳 腺 外 科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として、以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・乳腺専門医取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・診断・手術治療・術後管理・補助治療等の高度な知識・技能の習得 ・専攻医取得：乳腺専門医、マンモグラフィ読影認定医 A または AS ・研究：国内学会での筆頭演者（口演、シンポジウム）、国際学会での筆頭演者（約 1 ～ 2 回以上 / 年）、査読付き学術誌での筆頭著者 2 編以上（欧文執筆）
	研修内容	1 年目は乳腺外科に在籍し、2 年目は自由選択 乳腺外科以外の 1 年間は診療を離れ、国立がん研究センター 研究所等での研究に特化した研修が可能です。
	研修の特色	乳腺外科としての技術および能力を有する者（乳腺専門医取得者あるいは取得見込み者）を対象とするコースであり、手術経験数は勿論のこと、乳腺外科全体の運営・手術の中心的役割や外科レジデントの指導にも携わることで、将来の乳腺外科医のリーダーとなるべき人材育成に力を入れたコースです。

レジデント 2 年コース	対象者	原則として、以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後 3 年目以降 ・日本外科学会専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専攻医取得：外科専門医、乳腺専門医、マンモグラフィ読影認定医 ・研究：国内または国際学会での筆頭演者（約 2 回以上 / 年）、査読付き学術誌での筆頭著者 1 編以上（欧文執筆を目標とする）
	研修内容	9 ヶ月以上の期間で乳腺外科に在籍し、それ以外の期間は他一般外科 ^{※1} ・乳腺関連科 ^{※2} の自由選択が認められる。 ^{※1} 食道外科、胃外科、大腸外科、肝胆膵外科、呼吸器外科 ^{※2} 形成外科、病理診断科・臨床検査科、放射線診断科、生理検査科（乳房超音波検査）、乳腺腫瘍内科 等の乳腺疾患に関連する科 6 か月まで、外科専門医取得を目的とした連携病院での研修が認められます。
	研修の特色	2 年間、乳腺外科や希望する他一般外科・乳腺関連科の研修を行うことにより、効率的かつ集中的にトレーニングを積むことが可能なコースです。

連携大学院 コース	対象者	レジデント 3 年コースまたは 2 年コースに準ずる
	研修目標	・専攻医取得：外科学会専門医、乳腺専門医 ・学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国内または国際学会での筆頭演者（約 2 回以上 / 年）、査読付き学術誌での筆頭著者 2 ～ 3 編以上（欧文執筆を目標とする）
	研修内容	外科総合レジデントコース / レジデント 2 年コース / 乳腺専門医取得コースに、2 年間のがん専門修練医コース※をあわせたプログラムです。 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1 年目から研究の指導を受けられます。 ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません。
	研修の特色	国立がん研究センター中央病院の症例数および最先端の研究内容を基盤として、外科専門医や乳腺専門医などの専攻医取得と共に、就労しながらの学位取得を目指すことが可能なコースです。 2012 年度から連携大学院制度の運用が始まり、現在、当科からは 1 名の学位取得と 1 名の取得見込み者（2018 年度）を輩出しております。

レジデント 短期コース	対象者	原則として、外科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする。 ※ 主に、乳腺専門医取得を目指している医師、短期の乳腺外科研修を希望している医師を対象としたプログラムです。
	研修目標	・専攻医取得：乳腺専門医、マンモグラフィ読影認定医 A または AS ・研究：国際学会での筆頭演者、査読付き学術誌での筆頭著者（欧文執筆）
	研修内容	乳腺外科に最短 3 か月から最長 2 年未満の期間在籍します。 ※ 原則として 3 か月単位とする 乳腺外科の在籍期間には各個人相談に応じ、他一般外科 ^{※1} ・乳腺関連科 ^{※2} の自由選択が可能です。 ^{※1} 食道外科、胃外科、大腸外科、肝胆膵外科、呼吸器外科 ^{※2} 形成外科、病理診断科・臨床検査科、放射線診断科、生理検査科（乳房超音波検査）、乳腺腫瘍内科等の希望診療科も研修可能（1 診療科 3 か月を原則とする）
	研修の特色	短期間の研修期間内で、集中的に乳腺外科の研修を行うことが可能であり、乳腺専門医としての人材育成を目指していきます。積極的に学会発表や論文執筆も経験して頂きます。

乳腺専門医取得 コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後 5 年目以降 ・日本外科学会専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専攻医取得：乳腺専門医、マンモグラフィ読影認定医 ・手術経験数：乳腺専門医取得に必要な件数以上 ・研究：国際学会での筆頭演者（約 2 回以上 / 年）、査読付き学術誌での筆頭著者 1 編以上（欧文執筆を目標とする）
	研修内容	2 年の研修期間中、乳腺外科を中心に、乳腺専門医取得に必要な専門知識である乳腺関連科 ^{※1} を経験することが出来ます。 ^{※1} 形成外科、病理診断科・臨床検査科、放射線診断科、生理検査科（乳房超音波検査）、乳腺腫瘍内科 等の乳腺疾患に関連する科
	研修の特色	2 年間、集中的に乳腺関連の研修を行うことが可能なコースであり、将来の乳腺専門医としての人材育成を目指していきます。乳腺専門医取得に必要な手術経験症例数を短期間で取得すると共に、多数の最先端研究をもとに、学会発表および論文執筆を経験することが可能です。

乳腺専門医取得 短期コース	対象者	原則として、日本外科学会専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする。
	研修目標	・専攻医取得：乳腺専門医、マンモグラフィ読影認定医 ・手術経験数：乳腺専門医取得に必要な件数以上 ・研究：国内または国際学会での筆頭演者（約 2 回以上 / 年）、査読付き学術誌での筆頭著者 1 編以上（欧文執筆を目標とする）
	研修内容	原則 3 ヶ月単位で最長 2 年未満までの研修期間中、乳腺外科を中心に、乳腺専門医取得に必要な専門知識である乳腺関連科 ^{※1} を経験することが出来ます。 ^{※1} 形成外科、病理診断科・臨床検査科、放射線診断科、生理検査科（乳房超音波検査）、乳腺腫瘍内科 等の乳腺疾患に関連する科
	研修の特色	最短 3 ヶ月から最長 2 年未満の期間で、目的に応じて集中的に乳腺関連の研修を行うことが可能なコースであり、将来の乳腺専門医としての人材育成を目指していきます。乳腺専門医取得に必要な手術経験症例数を短期間で取得すると共に、多数の最先端研究をもとに、学会発表および論文執筆を経験することが可能です。

脳 脊 髄 腫 瘍 科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・日本脳神経外科学会専門医、関連するサブスペシャリティ領域専門医等取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・悪性脳腫瘍の臨床・基礎研究の技術・考え方を習得する ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	2 年間の研修期間のうち 1 年間は脳脊髄腫瘍科、1 年間は研究所等自由選択
	研修の特色	悪性脳腫瘍のスペシャリストとなるための、臨床・基礎研究（分子診断など）の技術と考え方を習得する

レジデント 3 年コース・ 2 年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後 3 年目以降 ・日本脳神経外科学会専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・悪性脳腫瘍の臨床・基礎研究の技術・考え方を習得する ・専門医取得：日本脳神経外科専門医 ・研究：国内全国学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち 2 年以上もしくは 1 年以上脳脊髄腫瘍科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 病理診断科、放射線治療科、腫瘍内科等の希望診療科も研修可能
	研修の特色	悪性脳腫瘍のスペシャリストとなるための、臨床・基礎研究（分子診断など）の技術と考え方を習得する

連携大学院 コース	対象者	・レジデント 3 年コースまたは 2 年コースに準ずる
	研修目標	・悪性脳腫瘍の臨床・基礎研究の技術・考え方を習得する ・学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	3 年もしくは 2 年のレジデントコースに、2 年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1 年目から研究の指導を受けられます ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません ※ 前半の 3 年もしくは 2 年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※ 後半 2 年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます
	研修の特色	悪性脳腫瘍のスペシャリストとなるための、臨床・基礎研究（分子診断など）の技術と考え方を習得する 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です

レジデント 短期コース	対象者	原則として日本脳神経外科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、悪性脳腫瘍の基本的な診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	脳脊髄腫瘍科に最短 3 か月から最長 1 年の期間在籍します。 ※ 原則として 3 か月単位とする
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

専攻医コース （連携施設型）	対象者	※日本脳神経外科学会専門医取得のための研修を目的としたコース 以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後 3 年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
	研修目標	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標とする。
	研修内容	国立がん研究センター中央病院に、3 か月単位、最長 1 年間在籍する。
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です。

婦人腫瘍科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・産婦人科専門医・関連するサブスペシャリティ領域専門医等取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・婦人科癌における手術治療・集学的治療・周術期管理など高度な知識・技能を習得する。 ・国内外での学会発表・論文作成 ・婦人科腫瘍専門医や臨床細胞学会専門医の取得
	研修内容	1年間は婦人腫瘍科、1年間は自由選択 臨床・病理・基礎研究などを行うことが可能
	手術経験数	手技の達成度により術者となることが可能です。下記は2年間で経験可能な手術件数の目安です。 広汎子宮全摘：10件以上 傍大動脈リンパ節郭清を含む手術：10件以上 骨盤内リンパ節郭清を含む手術：10件以上 リンパ節生検を含む手術：20件以上
	研修の特色	希少がんを含め様々な婦人科悪性腫瘍に関する研修が可能です。日本婦人科腫瘍学会専門医の取得を目標に研修を積んでいただきます。悪性腫瘍に特化した研修ができるため学会発表や論文作成などを積極的に経験していただきます。
レジデント 3年コース・ 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・産婦人科専門医取得済みもしくは採用年に取得見込み
	研修目標	・婦人科腫瘍専門医取得のために必要な診断・治療の知識と手技、及び患者管理を理解・習得する。 ・国内外学会での筆頭演者、論文作成・筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち、1年以上は婦人腫瘍科に在籍。原則とし婦人科病理、大腸外科、泌尿器・後腹膜腫瘍科をローテーションする。また、記載以外の希望する科への研修も可能である。
	手術経験数	手技の達成度により術者となることが可能です。下記は3年間で経験可能な手術件数の目安です。(執刀一助手) 広汎子宮全摘：10-20件 傍大動脈リンパ節郭清を含む手術：7-10件 骨盤内リンパ節郭清を含む手術：10-15件 リンパ節生検を含む手術：26-54件
レジデント 短期コース	研修の特色	婦人科悪性腫瘍手術に必要な手術手技、骨盤内解剖、婦人科病理について研修します。化学療法は乳腺・腫瘍内科で行うため手術に集中した研修が可能です。研修期間中に、乳腺・腫瘍内科で化学療法を学ぶことも可能です。国内外での学会発表を積極的に行い、論文も作成します。
	対象者	原則として産婦人科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする ・初期臨床研修が終了し婦人科腫瘍専門医を目指す医師 ・婦人科腫瘍について一次診療を学びたい医師
	研修目標	・短期間の研修で婦人科腫瘍の基本的な診療経験を積むことを目標としています。
	研修内容	婦人腫瘍科に最短6か月から最長1年の期間在籍します。 ※原則として3か月単位とする 全体の在籍期間が1年以上であれば希望する科での研修も可能。
専攻医コース (連携施設型)	研修の特色	研修者のニーズに合わせて柔軟な研修期間設定・内容の調整が可能です。
	対象者	※産婦人科専門医取得のための研修を目的としたコース 以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
	研修目標	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標とする。
	研修内容	国立がん研究センター中央病院に、3か月単位、最長2年間在籍する。

頭頸部外科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・頭頸部がん専門医取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・頭頸部領域における治療開発等、高度な知識、技能を習得する ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者 ・機会に応じて、臨床試験、医師主導治験の事務局を担当する
	研修内容	2年間の研修期間のうち基本的には頭頸部外科に所属する
	研修の特色	一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象としたコースです
レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・耳鼻咽喉科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：頭頸部がん専門医 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年半以上頭頸部外科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※基本的には、頭頸部内科、放射線治療科、形成外科、病理診断科、緩和医療科を、各3ヶ月以上ローテーションする ※上記以外の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※原則として、日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医制度研修カリキュラムに則った研修を行う
	研修の特色	頭頸部全般の幅広い診療経験を積むことが可能です 国際学会、Peer review journal論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています
レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・耳鼻咽喉科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：頭頸部がん専門医 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上頭頸部外科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※頭頸部内科、放射線治療科、形成外科、病理診断科、緩和医療科の中から希望を、各3ヶ月以上ローテーションする ※原則として、日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医制度研修カリキュラムに則った研修を行う
	研修の特色	頭頸部全般の幅広い診療経験を積むことが可能です 国際学会、Peer review journal論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています
レジデント 短期コース	対象者	原則として耳鼻咽喉科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、頭頸部の基本的な診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	頭頸部外科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※原則として3か月単位とする
	研修の特色	研修者のニーズに合わせて柔軟な研修期間設定が可能です
専攻医コース (連携施設型)	対象者	※耳鼻咽喉科専門医取得のための研修を目的としたコース 以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
	研修目標	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	国立がん研究センター中央病院頭頸部外科に、3か月単位、最長3年間在籍します
	研修の特色	研修者のニーズに合わせて柔軟な研修期間設定が可能です

形成外科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・形成外科専門医、関連するサブスペシャリティ領域専門医等取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師 ・5年以上の臨床経験を有する医師
	研修目標	・各領域における再建外科手術（治療方針の決定、皮弁挙上、マイクロサージャリー）の習得 ・機会に応じて、国内全国学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
	研修内容	2年間の形成外科専属として研修します。
	手術経験数	手術の達成度により、皮弁挙上から指導を行い、遊離皮弁移植術における皮弁縫い付け、マイクロサージャリーの術者となることも可能です。 皮弁挙上：40例以上 マイクロサージャリーによる血管吻合手術：20例以上
	研修の特色	頭頸部再建、骨軟部腫瘍切除後の再建、乳房再建を中心に再建外科に関する多種多様な再建の研修が可能です。また積極的に学会活動や執筆活動を経験して頂きます。希望により東病院形成外科での研修が可能です。
レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・基本領域専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・各領域における再建外科手術（治療方針の決定、皮弁挙上、マイクロサージャリー）の習得 ・機会に応じて、国内全国学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上形成外科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 頭頸部外科、骨軟部腫瘍科等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする）
	手術経験数	手術の達成度により、皮弁挙上から指導を行い、遊離皮弁移植術における皮弁縫い付け、マイクロサージャリーの術者となることも可能です。 皮弁挙上：40例以上 マイクロサージャリーによる血管吻合手術：20例以上
	研修の特色	がん専門修練医と同様な研修が可能です。頭頸部再建、骨軟部腫瘍切除後の再建、乳房再建を中心に再建外科に関する多種多様な再建の研修が可能です。希望がある方においては頭頸部外科、乳腺外科、整形外科などの研修も可能です。また積極的に学会活動や執筆活動を経験して頂きます。希望により東病院形成外科での研修が可能です。
レジデント 短期コース	対象者	原則として形成外科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	・短期間の研修で、再建外科手術（治療方針、皮弁挙上、マイクロサージャリー）の経験を積むことを目標としています。
	研修内容	形成外科に最長6か月から最長2年未満の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です
専攻医コース （連携施設型）	対象者	※形成外科専門医取得のための研修を目的としたコース 以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
	研修目標	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標とする。
	研修内容	国立がん研究センター中央病院に、3か月単位、最長2年間在籍する。
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です。

泌尿器・後腹膜腫瘍科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・日本泌尿器科学会専門医、関連するサブスペシャリティ領域専門医等取得済み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・泌尿器科悪性腫瘍における手術治療、集学的治療、周術期管理等、高度な知識、技能を習得する。 ・専門医取得：泌尿器内視鏡技術認定医・がん治療認定医 ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者。
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は泌尿器科、1年間は自由選択。 ※ 泌尿器科以外の1年間は診療を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能。
	研修の特色	High volume centerである当院で、幅広く泌尿器悪性腫瘍に関する高度な研修が可能です。本コースは、基本的な泌尿器開腹手術・体腔鏡手術・ロボット手術参加経験をもち、一定レベル以上の実績を有する医師を対象としたコースです。手技的にはロボット支援前立腺全摘、体腔鏡下腎・腎尿管手術、その他複雑な開放手術への対応を重点的に指導し、さらなる技術の発展を促します。また泌尿器悪性腫瘍に対する薬物治療に関しても専門医の指導を受けることが可能です。また積極的に学会活動や執筆活動を経験して頂きます。
レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・日本泌尿器科学会専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・泌尿器・後腹膜悪性腫瘍専門医に必要な診断・外科治療、抗癌剤治療に関する臨床および基礎の幅広い知識・技術の習得 ・研究：国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著
	研修内容	希望により、泌尿器科病理、大腸外科、婦人科のローテーションも可能である。 ※ 原則として、日本泌尿器科学会教育研修プログラムに則った研修を行う。
	研修の特色	泌尿器科研修で最も推奨されるコースです。 外科的処置においては、内視鏡手術・ロボット手術・体腔鏡手術・開腹手術すべてに参加することが可能であり（総数約350例/年）、泌尿器科専門の腫瘍内科医の指導のもと薬物治療についての幅広い経験を積みむことも可能です。 国際学会、Peer review journal論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています。
レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・日本泌尿器科学会専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・泌尿器・後腹膜悪性腫瘍専門医に必要な診断・外科治療、抗癌剤治療に関する臨床および基礎の幅広い知識・技術の習得 ・研究：国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
	研修内容	レジデントコース（2年・3年）では希望により泌尿器科病理、大腸外科、婦人科のローテーションが可能であるが、2年コースでは基本的に泌尿器科を中心とした研修プログラムとする。 ※ 原則として、日本泌尿器科学会教育研修プログラムに則った研修を行う。
	研修の特色	泌尿器科研修で最も推奨されるコースです。 外科的処置においては、内視鏡手術・ロボット手術・体腔鏡手術・開腹手術すべてに参加することが可能であり（総数約350例/年）、泌尿器科専門の腫瘍内科医の指導のもと薬物治療についての幅広い経験を積みむことも可能です。 国際学会、Peer review journal論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています。
連携大学院 コース	対象者	レジデント3年コースまたは2年コースに準ずる
	研修目標	・泌尿器科悪性腫瘍における手術治療、集学的治療、周術期管理等、高度な知識、技能を習得する。 ・学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
	研修内容	レジデント3年または2年コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです。 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられます。 ※ 前半の3年または2年のレジデント研修期間は、当該コースの内容に準じます。 ※ 後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます。 ※ がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります。がん専門修練医不採用者は研修生の立場で大学院に在籍はできますが、当院からの給与は支給されません
	手術経験数	レジデント3年または2年コースとがん専門修練医に準ずる。
	研修の特色	泌尿器科専門医取得と同時に、学位取得を目指すコースです。 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です。
レジデント 短期コース	対象者	原則として泌尿器科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、泌尿器科悪性腫瘍に関する基本的な診療経験を積むことを目標としています。
	研修内容	泌尿器・後腹膜腫瘍科に最長3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする ※ 基本的には、手術見学および助手のみの研修となります。
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です。所属医療機関での研修に加えて、より幅広い知識・技術を習得したい医師の方に適しています。
専攻医コース （連携施設型）	対象者	※泌尿器科専門医取得のための研修を目的としたコース 以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
	研修目標	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標とする。
	研修内容	国立がん研究センター中央病院に、3か月単位、最長2年間在籍する。
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です。

骨軟部腫瘍・リハビリテーション科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・日本整形外科学会専門医、関連するサブスペシャリティ領域専門医等取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・骨軟部腫瘍における手術治療、化学療法、集学的治療を習得する ・がん治療認定医の取得 ・研究：国際学会での筆頭演者、英文邦文の論文での筆頭著者
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は骨軟部腫瘍科、1年間は自由選択 ※ 骨軟部腫瘍科以外の1年間は診療を離れ、研究所でのリサーチに特化した研修が可能
	手術経験数	本コースは基本的に整形外科臨床ができる医師のコースであるため、悪性腫瘍手術を重点的に指導する。 骨悪性腫瘍手術：10例以上 軟部悪性腫瘍手術：30例以上
	研修の特色	希少がんである肉腫の High volume center である当院で、悪性骨軟部腫瘍に関するトップレベルの研修が可能です。がん治療認定医の取得も可能です。また積極的に学会活動や執筆活動を経験して頂きます。希望により病理診断科を始めとする他診療科でも研修が可能です。
レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・日本整形外科学会専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：がん治療認定医 ・臨床：骨軟部腫瘍の診断・治療を主体となって実施可能な臨床能力を養う ・研究：国内・国際学会での筆頭演者、英文邦文の論文での筆頭著者
	研修内容	病理診断科を3ヶ月ローテーションする。 上記以外の期間は自由選択 ※ 原則として、日本外科整形学会教育研修プログラムに則った研修を行う
	手術経験数	骨軟部悪性腫瘍、良性腫瘍、転移性骨腫瘍の手術経験年間50例以上の経験
	研修の特色	骨軟部腫瘍全般の幅広い診療経験（手術、化学療法、緩和医療）をつむことが可能です 国際学会、論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています。研究を希望される場合には研究所の紹介も可能です。
レジデント 短期コース	対象者	原則として日本整形外科学会専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、骨軟部腫瘍の基本的な診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	骨軟部腫瘍科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする ※ 全体の在籍期間が1年以内であれば、病理診断科など他診療科と組み合わせた研修も可能
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です。応募状況によって研修期間の延長も可能です。
専攻医コース (連携施設型)	対象者	※日本整形外科学会専門医取得のための研修を目的としたコース 以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
	研修目標	短期間の研修で、基本的な骨軟部腫瘍の診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	国立がん研究センター中央病院に、3か月単位、最長1年間在籍します。国内有数の high volume center で、希少がんである骨軟部腫瘍の臨床（診断、手術、化学療法）の基本を学び、腫瘍を専門としない整形外科医が日常臨床で身に付けるべき知識を持てるようにします。6か月を超えて研修する場合には病理診断科を始めとする他診療科での研修も可能です。
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です。国内外での学会発表や論文作成も可能です。

皮膚腫瘍科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とします。 ・当センターのレジデント修了者 ・日本皮膚科学会専門医、関連するサブスペシャリティ領域専門医等取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	皮膚悪性腫瘍に関してより深く専門的な臨床力の修得や世界に通用する臨床研究を行います。 悪性腫瘍関連の国内・国際学会での筆頭演者となること、筆頭著者として Peer review journal にアクセプトされることを目標とします。
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は皮膚腫瘍科、1年間は皮膚悪性腫瘍と関連あるテーマをもって活動できる範囲で自由に選択することができます。 ※ 1年間は臨床を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修を行うことも可能
	研修の特色	High volume center である当院で、2年間研修を加えることで、さらに専門的で高度な臨床力を身につけ、臨床研究の結果を出すことができると考えます。がん専門修練医コースは日本の中心的若手 dermatologic oncologist の育成プログラムです。
レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とします。 ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・日本皮膚科学会専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	専門医取得のほか、各皮膚悪性腫瘍の生物学的特性を学び幅広く知識と技術を修得することで、日常診療のスキルを上げることはもちろん、悪性腫瘍関連の国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者となることが目標です。
	研修内容	3年間在籍する期間内の1年間は研修者の希望や目的に応じて外科、内科、腫瘍病理などの他の診療科をローテーションすることができます。残り2年間は皮膚腫瘍科で集中的に研修します。
	研修の特色	悪性黒色腫をはじめとする皮膚悪性腫瘍に関して数多く、また幅の広い診療経験を積むことが可能です。 国内・国際学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています。
レジデント 2年コース	対象者	原則として皮膚科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とします。
	研修目標	2年間の集中的な研修で、皮膚悪性腫瘍の基本的な診療経験を積むことを目標としています。
	研修内容	1年半は皮膚腫瘍科に在籍し集中的に研修をし、残りの期間で研修者の希望や目的に応じて他の診療科をローテーションすることができます。
	研修の特色	悪性黒色腫をはじめとする皮膚悪性腫瘍に関して目的や目標を絞って研修を希望される医師向けのものと位置づけています。 国内・国際学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています。
レジデント 短期コース	対象者	原則として皮膚科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とします。
	研修目標	短期間の研修で、皮膚悪性腫瘍の基本的な診療経験を積むことを目標としています。
	研修内容	皮膚腫瘍科に最短6か月から最長2年未満の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とします
	研修の特色	研修期間が限られているため目的や目標を絞って研修を希望される医師向けのものと位置づけています。 各研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間、研修内容の設定が可能です。
専攻医コース (基幹施設型)	対象者	※日本皮膚科学会専門医取得のための研修を目的としたコース 以下の全ての条件を満たした医師を対象とします。 ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院を基幹施設として選択した専攻医
	研修目標	皮膚科専門医を取得することを目標とします。 同時に皮膚腫瘍科医として集中的にがんの診療経験を積み dermatologist としてだけでなく oncologist としての基本的な知識と技術を修得することを目標とします。
	研修内容	国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科を基幹施設として5年間の研修を受けます。 5年のうち国立がん研究センター中央病院には連続3年間在籍、残り2年間は連携施設で研修を受けます。 原則として国立がん研究センター中央病院に3年間在籍する期間内の1年間は外科、内科、腫瘍病理などの他の診療科をローテーションすることができます。残り2年間は皮膚腫瘍科で集中的に研修します。
	研修の特色	皮膚科医として専門医の取得が可能であるのと同時に、特に皮膚悪性腫瘍の診断と治療について幅広く専門的な最新の知識と技術を身につけることができます。 また希望すれば、連携大学院に入学することができます。 連携大学院制度を利用した場合、国立がん研究センターでの診療、研究に基づく学位取得が可能です。
専攻医コース (連携施設型)	対象者	※日本皮膚科学会専門医取得のための研修を目的としたコース 以下の全ての条件を満たした医師を対象とします。 ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
	研修目標	皮膚科専門医を取得することを目標としています。 同時に短期間の集中的な研修で皮膚腫瘍科医として基本的ながんの診療経験を積むことが目標です。
	研修内容	国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科を連携施設とする各基幹施設のカリキュラムの従って一定の期間皮膚悪性腫瘍について学びます。
	研修の特色	所属する基幹施設のカリキュラムの範囲内で研修者のニーズに合わせた柔軟な研修が可能です。

小児腫瘍外科

レジデント 短期コース	対象者	原則として外科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、小児腫瘍外科の基本的な診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	小児腫瘍外科に最短3か月から最長6か月の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

眼腫瘍科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・眼科専門医、関連するサブスペシャリティ領域専門医等取得済みまたは眼腫瘍学会関連施設での研修済み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・眼腫瘍領域における治療開発等、高度な知識、技能を習得する ・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者 ・機会に応じて、臨床試験、医師主導治験の事務局を担当する
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年以上は眼腫瘍科に所属する
	手術経験数	眼内腫瘍：10 例以上 眼付属器腫瘍：10 例以上 密封小線源治療：1 例以上
	研修の特色	一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象としたコースです。多数例の診療を経験することで、眼腫瘍の幅広い研修が可能です。

レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・眼科専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・研究：国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者 ・眼腫瘍全般の治療方針決定、治療実施
	研修内容	研修期間のうち1年以上眼腫瘍科に在籍し、それ以外の期間は自由選択 ※ 眼腫瘍科、放射線治療科、病理診断科、緩和医療科の中から希望を、各3ヶ月以上ローテーションする
	手術経験数	眼内腫瘍：10 例以上 眼付属器腫瘍：10 例以上
	研修の特色	眼腫瘍全般の幅広い診療経験を積むことが可能です 国際学会、Peer review journal 論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています

レジデント 短期コース	対象者	原則として眼科専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、眼腫瘍の基本的な診療経験を積むことを目標としています
	研修内容	眼腫瘍科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする 基本的には手術の助手のみの研修ですが、経験に応じた執刀も可能です。
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です

専攻医コース (連携施設型)	対象者	※眼科専門医取得のための研修を目的としたコース 以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
	研修目標	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標とする。
	研修内容	国立がん研究センター中央病院に、3か月単位、最長2年間在籍する。
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です。

麻酔・集中治療科

レジデント 3年コース・ 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後5年目以降 ・基本領域専門医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・心臓外科・産科を除く腫瘍外科における麻酔全般の技術および集中治療室での術後管理を通して周術期管理を習得する。また呼吸不全や敗血症、急性腎障害等の重症患者の集中治療管理を習得する。
	研修内容	手術室での麻酔を中心に、CCMをローテーションします。習得目標に応じて麻酔とCCMのローテーション期間は調整可能です。CCMを3ヶ月以上、また緩和医療科を1ヶ月以上ローテーションします。

レジデント 短期コース	対象者	原則として基本領域専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で麻酔に関する基本的な経験を積むことを目標としています。
	研修内容	麻酔・集中治療科に最短6か月から最長2年未満の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする

病理診断科

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・病理専門医、関連するサブスペシャリティ領域専門医等取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師 ・死体解剖資格を有することが望ましい
	研修目標	・日本病理学会認定病理専門医の受験資格を研修修了時までに取得する ・病理診断能力をさらに高め、専門性を発揮した研究活動も可能である
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は病理診断科、1年間は自由選択 ※ 病理診断科以外の1年間は診療を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能
	研修の特色	一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象としたコースです

レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降
	研修目標	・専門医取得：病理専門医 ・がん病理診断の習得
	研修内容	病理解剖と各臓器（消化器、呼吸器、婦人科など）の外科病理を一定期間毎にローテーションする。希望があれば以下を行うことができる。 ※ 病理診断に応用可能な遺伝子解析などの技術の修得ならびに外科病理学的研究 ※ 病理診断に必要な臨床的知識の習得を目的とする関連臨床部門へのローテーション
	研修の特色	全期間を通じて病理解剖と各臓器（消化器、呼吸器、婦人科など）の外科病理を一定期間毎にローテートし、細胞診断、術中診断、生検診断、手術材料の切り出しと診断に従事しながら病理診断能力を養う。また診断に必要な免疫組織化学染色の理論と技術の修得をおこなう。この間、臨床各科とのカンファレンスを通じて、疾患全体像の把握と治療に必要な病理情報の判断能力が養われる。専門医取得の従来制度に対応している。また専門医取得後にがん病理診断をさらに深く習得することができる。

レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降
	研修目標	・専門医取得：病理専門医 ・がん病理診断の習得
	研修内容	病理解剖と各臓器（消化器、呼吸器、婦人科など）の外科病理を一定期間毎にローテーションする。希望があれば以下を行うことができる。 ※ ある特定の領域・臓器の病理診断学を集中的に研修する。 ※ 病理診断に応用可能な遺伝子解析などの技術の修得ならびに外科病理学的研究 ※ 病理診断に必要な臨床的知識の習得を目的とする関連臨床部門へのローテーション
	研修の特色	全期間を通じて病理解剖と各臓器（消化器、呼吸器、婦人科など）の外科病理を一定期間毎にローテートし、細胞診断、術中診断、生検診断、手術材料の切り出しと診断に従事しながら病理診断能力を養う。また診断に必要な免疫組織化学染色の理論と技術の修得をおこなう。この間、臨床各科とのカンファレンスを通じて、疾患全体像の把握と治療に必要な病理情報の判断能力が養われる。専門医取得の従来制度に対応している。また専門医取得後にがん病理診断をさらに深く習得することができる。

レジデント 短期コース	対象者	原則として病理専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間の研修で、特定の領域・臓器の病理診断学の経験を集中的に積むことを目標としています
	研修内容	病理診断科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※ 原則として3か月単位とする
	研修の特色	ある特定の領域・臓器の病理診断学を集中的に研修するのに適している。

専攻医コース (基幹施設型・ 連携施設型)	対象者	※病理専門医取得のための研修を目的としたコース 以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院を基幹施設として選択した専攻医、または専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
	研修目標	・専門医取得：病理専門医
	研修内容	病理解剖と各臓器（消化器、呼吸器、婦人科など）の外科病理を一定期間毎にローテーションする。 希望があれば以下を行うことができる。 ※ 病理診断に応用可能な遺伝子解析などの技術の修得ならびに外科病理学的研究 ※ 病理診断に必要な臨床的知識の習得を目的とする関連臨床部門へのローテーション
	研修の特色	全期間を通じて病理解剖と各臓器（消化器、呼吸器、婦人科など）の外科病理を一定期間毎にローテートし、細胞診断、術中診断、生検診断、手術材料の切り出しと診断に従事しながら病理診断能力を養う。また診断に必要な免疫組織化学染色の理論と技術の修得をおこなう。この間、臨床各科とのカンファレンスを通じて、疾患全体像の把握と治療に必要な病理情報の判断能力が養われる。 新専門医制度：当施設では新専門医制度に対応した病理専門研修プログラム（3年）を用意しています。

臨床検査科

専攻医コース (基幹施設型)	対象者	※臨床検査専門医取得のための研修を目的としたコース 以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院を基幹施設として選択した専攻医
	研修目標	・専門医取得：臨床検査専門医 ・研究：臨床検査関連学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者
	研修内容	3年間の研修期間は臨床検査科に在籍することを原則とします。 ※ 非腫瘍性疾患に関する外部機関での研修や臨床検査専門医の素養を高めることを目的とした病理診断科、内科等他部署への研修については、研修状況によって考慮します。
	研修の特色	臨床検査専門医研修プログラムに従いますが、がんゲノム医療中核拠点病院として行っているクリニカルシーケンスの研修も可能です。

歯科

レジデント 3年コース・ 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に歯科医師免許取得後3年目以降
	研修目標	がん専門病院で歯科支持療法を担う歯科医師になるために必要な、すべての知識と技術を習得する。
	研修内容	がん治療開始前の予防的歯科介入（診断、治療）、がん治療に生じる全ての口腔内合併症に対するエビデンスに基づいた歯科の介入・具体的な支持療法、およびがん治療後や療養中～終末期の患者の口腔管理など、がん治療開始前から終末期まで、あらゆる状況でのがん口腔支持医療を研修していただきます。研修者のニーズにあわせて2年コースと3年コースの2つの研修コースを選択していただきます。
	研修の特色	がん口腔支持療法全般の幅広い診療経験を積むことができ、がん専門病院で歯科支持療法を担う歯科医師になるために必要なすべての知識と技術を習得することができます。あらゆる状況での歯科介入が適切に提供できる、がん口腔支持療法のエキスパートを目指して頂きます。希望する方には学会発表、論文執筆等の研究活動の機会も確保されています。
レジデント 短期コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした歯科医師を対象とする ・採用時に歯科医師免許取得後2年目以降
	研修目標	・「がん口腔支持療法」の知識と診療経験を積むことを目的としています。
	研修内容	歯科に最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※原則として3か月単位とする 歯科外来において、がん治療における予防的な歯科口腔管理、およびがん治療中の口腔有害事象の基本的な対応を研修していただきます。またがん治療に必要な歯科補綴装置（プロテーゼや放射線治療時のスパーサーなど）の作成を経験していただきます。
	研修の特色	がん治療中の口腔有害事象に関する症例が多いため、がん口腔支持療法全般の幅広い診療経験を積み重ねることが可能です。特に予防的な歯科口腔管理に力を入れており、当院の周術期口腔管理のシステムにあわせた歯科介入が経験できます。研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です。

臨床研究支援部門

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・5年以上の臨床経験を有し、臨床研究に関する基礎知識を有する医師 ・関連するサブスペシャルティ専門医等取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・医師主導治験の調整事務局を担当する ・各種薬事規制と医薬品等の臨床開発方法を修得する ・研究：国際学会での筆頭著者、Peer review journalでの筆頭著者
	研修内容	臨床研究支援部門内で医師主導治験の調整事務局としてプロジェクトマネジメントを担当し、アカデミア臨床開発、薬事・保険に関する規制要件、生物統計学、データマネジメント等を学ぶ。日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）の支援部署で国際共同試験や先進医療の臨床試験を学ぶことも可能。2年間の研修期間のうち1年間は診療科での外来業務等へエフォートを割くことも選択可能としています。診療科での研修を希望される場合は事前にご相談ください。
	研修の特色	臨床研究中核病院として高度な臨床研究支援体制のもと実施している多種多様な臨床研究に主体的に携わることができるため、様々な薬事知識や臨床開発方法論が習得可能です。
レジデント 3年コース・ 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・基本領域専門医取得済みもしくは取得見込み ・4年以上の臨床経験を有する医師
	研修目標	・臨床試験方法論の修得：研究デザイン、統計解析手法、薬事規制要件等 ・研究：国際学会での筆頭著者、Peer review journalでの筆頭著者
	研修内容	臨床研究支援部門内で研究コンサルティング、プロトコール作成支援、各種報告書に対する医学的レビュー、学会発表・公表論文レビューなどを通じて、臨床試験方法論、生物統計学、データマネジメント、薬事・保険に関する規制要件を学ぶ。日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）の支援部署と医師主導治験の支援部署のいずれかを選択可能で、両者のローテーションも可能。原則として他の診療科へのローテーションはありませんが、希望される場合にはご相談ください。
	研修の特色	医師主導治験、先進医療制度下の臨床試験、国際共同試験、大規模多施設共同試験など多種多様な臨床研究に携わることが出来ます。自らが支援を行った臨床試験を通じて新たな治療が生み出され、がん患者に対する明日からの治療方針が変わります。また、過去の臨床試験データを用いた附随研究を自ら立案し、国際学会での発表、論文公表を行うことを奨励しています。
レジデント 短期コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・基本領域専門医取得済みもしくは取得見込み ・採用時に医師免許取得後5年目以降 ・4年以上の臨床経験を有する医師
	研修目標	・研究デザイン、統計解析手法、薬事規制要件等、臨床試験方法論を修得する ・臨床研究の中央支援機構の仕組みを修得する
	研修内容	最短3か月から最長1年の期間在籍します。 ※原則として3か月単位とする ※短期レジデントの前後に臨床研究支援部門で継続的な研修を行うことが前提となります。
	研修の特色	

中央病院がん専門修練医 研修課程

- 内科部門は呼吸器内科、消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、造血幹細胞移植科、先端医療科の7診療科からなる。
内科系部門は小児腫瘍科、頭頸部内科、放射線治療科、放射線診断科、内視鏡科（呼吸器）、内視鏡科（消化管）、緩和医療科、精神腫瘍科の8診療科からなる。
- 外科部門は呼吸器外科、食道外科、胃外科、大腸外科、肝胆膵外科、乳腺外科の6診療科からなる。
外科系部門は脳脊髄腫瘍科、婦人腫瘍科、頭頸部外科、形成外科、泌尿器・後腹膜腫瘍科、骨軟部腫瘍・リハビリテーション科、皮膚腫瘍科、眼腫瘍科、病理診断科の9診療科からなる。
- その他に臨床研究支援部門がある。
- 原則として第1学年を臨床、第2学年を研究にあてる。
研究とは臨床研究を指すが、希望により研究所での基礎的な研究を申請することもできる。
- がん専門修練医は申請すれば外来診療を行うことができる。外来ブースには限りがあるため、最終的には教育・研修に関する会議で調整を行う。
- ローテーション、研修期間については諸事情により変更する場合がある。

中央病院 レジデント 研修課程

- 内科部門は呼吸器内科、消化管内科、肝胆膵内科、乳腺・腫瘍内科、血液腫瘍科、造血幹細胞移植科、先端医療科の7診療科からなる。
内科系部門は小児腫瘍科、頭頸部内科、放射線治療科、放射線診断科、内視鏡科（呼吸器）、内視鏡科（消化管）、緩和医療科、精神腫瘍科の8診療科からなる。
- 外科部門は呼吸器外科、食道外科、胃外科、大腸外科、肝胆膵外科、乳腺外科の6診療科からなる。
外科系部門は脳脊髄腫瘍科、婦人腫瘍科、頭頸部外科、形成外科、泌尿器・後腹膜腫瘍科、骨軟部腫瘍・リハビリテーション科、皮膚腫瘍科、小児腫瘍外科、眼腫瘍科、麻酔・集中治療科、病理診断科、臨床検査科の12診療科からなる。
- その他に歯科部門、臨床研究支援部門がある。

- CCM研修、緩和医療研修について
レジデント（3年コース、2年コース、連携大学院コース、短期コース）については該当コースの定める期間中にCCM（Critical Care Medicine）と呼ばれるICU（集中治療室）・Oncologic Emergency研修および緩和医療研修を必修とする。

研修期間	CCM		緩和医療科
	外科・外科系	内科・内科系	内科・内科系
6ヶ月以下	不要	不要	不要
1年以下	1ヶ月	1ヶ月	不要
2年以下	2ヶ月	2ヶ月	1ヶ月
3年以下	3ヶ月	2ヶ月	1ヶ月

- ※CCM研修
病理診断科、臨床検査科、歯科、臨床研究支援部門の各コースでの研修者は除く
精神腫瘍科レジデント短期コースでの研修者は選択制とする

- ※緩和医療研修
病理診断科、臨床検査科、歯科、臨床研究支援部門、外科・外科系、内視鏡科（呼吸器・消化管）の各コースでの研修者は除く
後期ローテーションにおいては緩和医療（在宅を含む）研修のみ選択可能

- ローテーションについて
それぞれのコース毎に定めるカリキュラムに従う。
具体的には、個人の経験やコースの特殊性を考慮し、レジデント教育責任者等と協議して決定する。
調整を行う必要が生じた場合は、原則として教育・研修に関する会議等の審議を経て決定する。

交流研修

必要と認められる場合には、以下に定める施設において研修（交流研修）を受けることができる。

交流研修の期間は以下を原則とする。（所属部署・受入先部署間の調整および会議での承認が必要）

- 東病院
 - 研究所
 - 先端医療開発センター
 - 社会と健康研究センター
 - がん対策情報センター
 - 中央病院人事育成センター運営会議（レジデント研修・教育に係る会議）において認められたセンター外の施設
- がん専門修練医 …6 か月以内
 - レジデント 3 年コース …6 か月以内
 - レジデント 2 年コース …3 か月以内
 - レジデント短期コース …要相談

選択可能な研修先（参考例）

組 織	部 署	研修内容
東病院	緩和ケア 頭頸部外科 放射線治療 (粒子線治療) 等	交流研修可能
社会と健康研究センター	疫学研究部	多目的コホート研究や国立がん研究センターのがん検診受診者を対象としたフォローアップ研究などにおいて、生活習慣を把握するアンケート情報、レセプトなどの電子化医療情報、DNA/ 血漿検体などの生体試料などを利用し、がんの部位別リスク要因の検討などの疫学研究を実施する。これにより追跡データを用いた統計解析技術を習得し、論文作成を目標とする。原則として研修期間は3カ月以上。
	予防研究部	様々な方法に基づく各種疫学関連データを統合して解析する技術を習得し、論文作成を目標とする。特に、国内外の複数のコホート研究の出版論文のメタアナリシスやオリジナルデータに基づくプール解析などを実施し、エビデンスレベルを高め、要因負担研究などの応用研究に展開させる。原則として研修期間は3カ月以上。
	検診研究部	がんの早期発見・早期治療が、死亡率減少効果につながるか？という検診の有効性評価に関する疫学論文のシステムティックレビューに参加し、論文の批判的吟味を実施する。メタアナリシスの手法を習得し、複数の研究結果の統合した結果を構築し、論文作成を目標とする。原則として研修期間は 3 か月以上。
	検診開発研究部	既に実用化されている診断法や新たに開発された早期発見手法の検診への導入を目指した評価研究；主に、国立がん研究センター中央病院検診センターにおけるがん検診モダリティの精度評価を実施する。
	健康支援研究部	がん医療におけるコミュニケーションに関する研究、食による心理的苦痛軽減に関する研究 がん支持療法領域の臨床研究マネジメント QOL 関連の調査、小規模コホート、心理・行動介入などの知識習得
がん対策情報センター	がん臨床情報部	がん医療を国レベルの制度や施策を通して改善していくために必要なエビデンスを作っていく過程を、ビッグデータ解析、臨床疫学を通して触れていただく機会を提供します。具体的には、①院内がん登録や DPC データを使った臨床データ解析②臨床疫学の基礎知識習得、③がん対策・政策で必要になるエビデンスの提供について教育します。原則として 3 ヶ月以上とします。長めにいらっしゃるほど、より深く知識や技術の習得が可能です。 米国および英国への公衆衛生分野 (MPH、MS、PhD) の留学経験者も在籍しているので、相談にのります。
	がん統計・総合解析研究部	がん登録を始めとした疾病統計データ（罹患率、死亡率、生存率など）の分析を通して、データ解析や解釈の技術を習得する。研修期間は原則として 3 か月以上とし、テーマを決めて論文作成を目標とする。
	がん情報提供部	信頼できる情報の作成方法や配慮の仕方などを学びつつ、「がん情報サービス」に掲載する情報を実際に作成します。原則として研修期間は 3 カ月以上。
	がん医療支援部	病院や地域でのがん医療の質の向上を目指した PDCA サイクルを確保していくための手法や、医療従事者の育成を目的とした研修会の企画、運営、評価等の方法について学ぶことができます。
	がんサバイバーシップ支援部	①がん診断後の社会生活に関する研究を学ぶ（研究のタイミングによる）。 ②サバイバーシップに関する一般向け教育啓発イベントの企画運営を学ぶ。

期間はそれぞれ1か月以上とする。

がん専門修練医からのメッセージ

国立がん研究センター中央病院
第30期がん専門修練医
内視鏡科（消化管）コース

江 郷 茉 衣

中央病院のレジデントを選んだ理由

私は医局には属さず、市中病院で後期研修を行い、消化管の診断、治療、緊急内視鏡から、肝胆膵まで全て一通り経験しました。その中で、消化管の特に診断、治療を自分の専門にしたいと考え、general から専門性を極めようと、内視鏡の診断・治療を集中的に経験できる当院を選択しました。

研修プログラムの特徴、やりがい

市中病院では経験できなかった多くの症例が経験できます。また、中央病院のレジデント研修では消化管病理を学ぶことができます。私は半年間病理を選択し、基本的な病理の知識を積むことが出来ました。病理を知ること、より一層内視鏡診断の役に立ちました。

院内の雰囲気、研修環境

学会や研究会での発表の機会も多く、入職前に想像していたよりも忙しいですが、同世代の、同じ目標をもったレジデントがたくさんいるので、日々切磋琢磨しながら頑張っています。スタッフの先生方も相談に乗ったり飲み連れて行ってくださったりして、熱心にご指導いただき大変勉強になります。また、海外からもたくさんの先生が見学に来られるので、とても国際的ですね。国内外のライブデモや学会などに行きた際には、他の病院の先生とも交流の場が得られるので大変刺激になります。



中央病院だから経験したこと、できること

がん専門病院なので他の施設では経験できないほどの症例数の消化管癌を診ることができます。また様々な臨床研究や治験が行われており、それらに携わる機会があるだけでなく研究の班会議に書記、スライド係など運営する側で参加する機会があるのは中央病院ならではだと思います。

研修終了後の進路

現在は医局には属していませんが、今後は学位の修得も考えており、大学病院に進むことも選択肢の一つとして考えています。機会があれば海外留学も希望しています。



休日の過ごし方・生活環境

徒歩圏内に銀座があるので、生活やストレス解消には全く困りません。病院の近くに住むレジデントも多いですが、家賃はそれなりに高いです。土日は自分の患者さんがいれば回診にきます。学会・研究会前は休日に準備をすることもあります。それ以外では、銀座に遊びに行ったりしています。

これはイチオシ！

当科には、国内外で大変著名な先生方がたくさんおられます。ライブなどで先生の特技を直接見て、ご指導頂けることは、大変貴重な機会だと思います。

みなさんへのメッセージ

がんセンターは専門を極める病院です。私はがんセンターに来て、市中病院では経験できなかった世界をたくさん見せて頂きました。がんを極めたい方はぜひ一緒にがんばりましょう。



ある1日のスケジュール

7:45	内視鏡治療前カンファレンス
8:30	病棟回診
9:00	上部消化管内視鏡検査
12:00	昼食
12:30	内視鏡治療、治療の介助
17:30	病理カンファレンス
18:30	合同カンファレンス
19:00	病棟回診
19:30	学会、カンファレンスの準備後、帰宅

レジデントからのメッセージ

国立がん研究センター中央病院
第49期レジデント正規コース
外科総合3年コース

金森 浩平

中央病院のレジデントを選んだ理由

2年間の初期研修の後に外科医として一般病院で3年間研修し、外科医として最も重要と言える癌の手術をさらに深く学ぶため次の研修先を検討しました。圧倒的な手術症例数を有し、どの科も高いレベルの手術を学べる環境であり、中でもレジデントがその他大勢ではなくそれぞれの役割を果たすことができる施設だと感じ、当院を選びました。

研修プログラムの特徴、やりがい

レジデントにも技術が求められます。毎回の手術に緊張感を持って臨むことができます。学会発表や論文執筆も盛んです。



院内の雰囲気、研修環境

科が細かく分かれています、科同士の垣根は低く合同手術やカンファレンスなど多数実施されており、症例ごとに最適なフレキシブルな治療が行われています。研修では多くの科をローテーションする機会があり、科を横断したカンファレンスも盛んなため、いろいろな科の先生に気さくに声をかけてもらえます。レジデントは全国から集まっています。互いに切磋琢磨して研修に励んでおり、仲が良いです。

中央病院だから経験したこと、できること

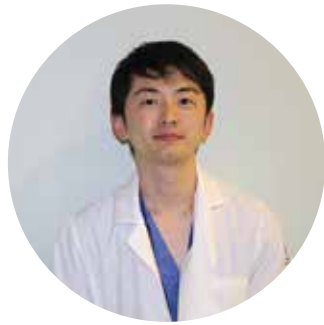
臨床試験が盛んにおこなわれており、レジデントに関わることも多々あります。外科レジデントであっても、病理診断科、放射線科、内科系などを含め各科をローテーションできるのも特色の一つです。どの科も症例豊富で、医師として知識の幅を広げる機会になります。

研修終了後の進路

がん専門修練医として引き続き当院で研修を続けたいと思っています。

休日の過ごし方・生活環境

都心に近く、どこに行くのも便利です。人生で一度は銀座の近くで生活するのも悪くないと思います。休日は当番の日もありますが、比較的ゆっくり休みをとれることが多いです。アルバイトに行くことも可能です。何も無い日は家族と過ごしています。

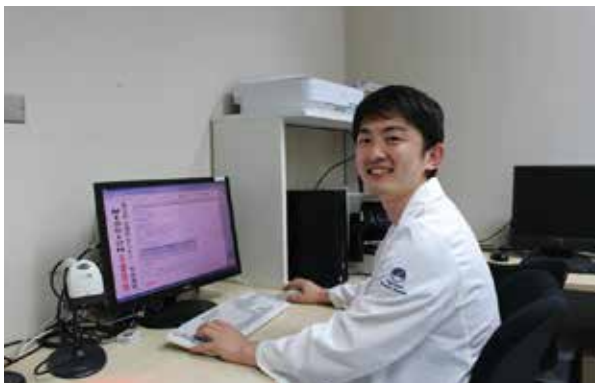


これはイチオシ！

何といっても手術の技術が一番です。

みなさんへのメッセージ

レジデントは最新の癌治療・手術を学ぼうという熱い気持ちを持った人ばかりです。症例は豊富で、スタッフもその気持ちに応えてくれます。是非一緒に学び、働きましょう。



ある1日のスケジュール

7:00	回診
7:30	病棟カンファレンス
8:30	手術
17:00	術前・術後カンファレンスなど
19:00	帰宅

国立がん研究センター中央病院
第49期レジデント正規コース
固形腫瘍コース

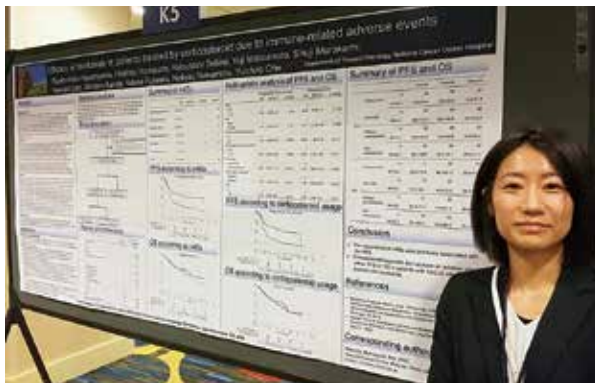
東山 量子

中央病院のレジデントを選んだ理由

一般病院で初期研修を終了した後に日々の業務に追われて、勉強が出来ずに過ごしていました。何らかのスペシャリストになりたかったこと、入局はややためらわれたこと、それでいてがんを体系的に学べる場所と思って選びました。

研修プログラムの特徴、やりがい

臨床では自分の専門分野とは違う臓器腫瘍の化学療法を行うことができます。あらゆる支持療法を行い化学療法を行うことに自信がつかます。また、学会発表（国内・海外ともに）や論文作成の機会に多数恵まれます。私の例では1年間に海外学会で1回・国内総会で4回の発表の機会を頂きました。



院内の雰囲気、研修環境

色々な経歴を持ったレジデントがおり、年次もまちまちです。基本的に他の人を尊重した和気藹々とした雰囲気です。カンファレンスがとても多く、レクチャーなども頻繁に実施されています。

中央病院だから経験したこと、できること

新しい治療法などに関して早い段階でのデータが有るので学会などでも発表など注目を得られます。ワークショップでの発表やウェブ講演の機会にも恵まれました。

研修終了後の進路

子供を生んだこともあり、以前の様に夜間当直などの回数をこなすのは困難と考えています。当院で専門医資格を取得し地域の基幹病院で腫瘍内科医として勤務医をした後、地元での開業を目指しています。

休日の過ごし方・生活環境

休日は病棟回診をしたり、論文作成やデータ収集などしています。併せて子育てをしています。ディズニーランドが近くで遊びに行きます。銀座も近く、無いものはないです。よく買い物や食事に出かけています。



これはイチオシ！

宿舎があるので休日に乳児を連れてきても仕事ができます。保育園が併設されており、私は保活を行う必要がありませんでした。

みなさんへのメッセージ

個々のニーズにあった研修を行えます。たくさんの研修プランがあるので是非一度見学にいらして下さい。



ある1日のスケジュール

6:00	起床 授乳
6:45	出発 レジデント部屋で授乳
7:30	保育園へ登園 メール返信、論文作成、サマリー作成
8:30	検査準備
9:00	気管支鏡検査
12:00	昼食
13:00	気管支鏡検査
16:30	カンファレンス
17:00	検査準備
17:30	研究データ収集
18:00	保育園迎え 授乳
19:00	帰宅

レジデントからのメッセージ

国立がん研究センター中央病院
第50期レジデント正規コース
外科総合3年コース

大内 健弘

中央病院のレジデントを選んだ理由

日本で一番の肺癌切除数の呼吸器外科での研修を希望し、レジデントとなりました。中央病院の呼吸器外科ではレジデントへの教育にも力をいれており、術者として多くの症例を担当することができる点もこの病院で研修することにしたポイントの一つです。また外科のみならず呼吸器内科、気管支鏡科、病理診断科、放射線診断・治療科、いずれもトップクラスの診療を行っており、それらの科でも研修ができることも大きなメリットだと考えています。

研修プログラムの特徴、やりがい

多くの科をローテーションすることによって外科のみならず内科・病理・気管支鏡・集中治療といったように集学的にがん治療について学ぶことができます。専門に入ってから外科以外の分野で学ぶことができるという点はメリットだと思います。また専門分野とは違う科も希望すれば研修することができ（私は頭頸部外科を4か月研修させていただき、非常に貴重な経験となりました）、やりがいがあると思います。

院内の雰囲気、研修環境

大学病院に比べると医師の数が少ないこともあり、科の垣根をこえて親しくしてくださる先生も多く、働きやすい環境であると思います。レジデント研修で多くの科をローテーションする中で、院内での顔は広くなるように感じています。中央病院は敷居が高く、高名な先生が多い、いわゆるお堅いイメージがありましたが、スタッフの先生方はレジデント出身の方も多く、フレンドリーで、非常に指導熱心で親身に相談に乗ってくれるのでストレスフリーです。レジデント同士、仲良く仕事終わりに飲みに出かけたり、休日に遊びに行ったりすることも多いです。研修に対するレジデントの意欲も高く、切磋琢磨できる環境であると思います。

中央病院だから経験したこと、できること

各科でご活躍されている先生から直接ご指導いただくことができ、日本全国から珍しい症例も集まってくるので他の病院では経験できないような症例を数多く経験できます。またカンファレンスや勉強会も多く、がん治療について広く深く学ぶことができます。治験も数多く行っているため、興味のある先生にはよい環境と思われます。



研修終了後の進路

レジデント修了後はがん専門病院で、臨床・研究を続けていきたいと考えています。がん診療を志す医師や、専門外の医師とも、患者さんに最善の医療を届ける努力を共有し実践していけたら嬉しいです。また、研修などを通して人脈を築き、留学もしたいです。



休日の過ごし方・生活環境

給料が低いので、休日にバイトに行くこともあります。当番がなければ、銀座に買い物に行ったり飲みに行ったりしています。サッカー観戦に行くこともあります。中央区築地に立地しており、銀座が徒歩圏内という都心での生活となりますので、遅くまで診療を行った後に気晴らしに出かけることも可能ですし、わずかな休日であっても充実させることができると思います。

これはイチオシ！

外科としては症例数が多いので、“本物の手術”を学ぶことができます。内科の先生も多くの症例があるために論文を書く機会を多く与えてもらっている印象があります。

みなさんへのメッセージ

豊富な症例数をもとに他の施設では経験できないような研修ができます。是非とも一度見学にいらしてください。見学の際に聞きたいこと・見たいものなど専門教育企画係を通してご連絡いただければ可能な限り対応します。がん治療の最前線でがん診療とともに学ぶことを楽しみにしています。



ある1日のスケジュール

6:45	レジデント回診+病棟業務
8:00	全体病棟回診
8:30	手術
16:00	手術終了、検体処理
17:30	透視検査
19:00	病棟回診
20:30	帰宅

国立がん研究センター中央病院
第50期レジデント正規コース
固形腫瘍コース

水野 孝昭

中央病院のレジデントを選んだ理由

世界に通用するがんの臨床医・研究者を育成し、全国に輩出するための国立機関であるから。これに尽きます。医師として教育を受けられるチャンスは意外と少なく、世界で活躍する先生方から直接指導を受けられること、先生方の仕事に関われることは、かけがえのない成長のチャンスです。

研修プログラムの特徴、やりがい

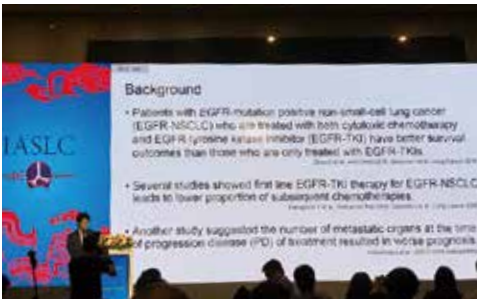
各科をローテーションすることができ、自分の専門科以外での“がん”に対する考え方や、治療開発の現状などを把握できることは、新しい視点を獲得ことができ、毎日が刺激的です。各科に第一線で活躍する指導医がおり、患者さんと直接向かい合う姿勢を目の当たりにできること、共同研究の指導を受けられることはまたよい機会です。

院内の雰囲気、研修環境

スタッフはそれぞれキャラが際立っていて、それだけ見ているだけでも毎日刺激的です。スタッフ同士は互いを尊重しており、意見を戦わせることはあっても各診療科の隔てなく非常に雰囲気良く仕事をしています。ありがちな外科と内科でバチバチやる、みたいなのは全くありません。レジデントは人数も多く、こんなにたくさんがんのエキスパートを志す同志と出会えることはかけがえのない財産です（一般の病院ではがんを専門にしたいという医者は多くありませんから…）。優秀なレジデントにいつも刺激を受けながら、互いに相談しながら、高め合うことができていると思います。また、実際に会える素晴らしい先生方の影響を受け、研究のイメージや将来の選択肢が確実に広がりました。

中央病院だから経験したこと、できること

1年次にIASLC Asia という肺癌関係の国際学会で Best abstract の賞を頂き、口演発表の機会を得ることができました。また、研究所や病理部の先生方にもご指導を頂き、ゲノム関係の研究も進めており、こちらは2年次にあたる2019年の日本臨床腫瘍学会で報告させて頂く予定です。厚生労働省から当院へ要請があり、東京ガールズコレクションの中の受動喫煙啓発イベントに登壇させて頂いたのもいい思い出です。



研修終了後の進路

当院のようながん専門病院で、臨床・研究を続けていきたいと考えています。がん診療を志す医師や、専門外の医師とも、患者さんに最善の医療を届ける努力を共有し実践していけたら嬉しいです。また、研修などを通して人脈を築き、留学もしたいです。



休日の過ごし方・生活環境

内科ローテートする科の多くは当番制であったり、土日の出勤がないことが多いので、土日は家族との時間に充てたり、学会に参加したりすることが可能です。東京は出かけるところやイベントが多いので、プライベートも充実しています。小さい子供がいるので、院内に保育所があり大変助かっています。近隣に病児保育もあり、有事の時にはお世話になっています。また、銀座・築地・新橋は徒歩圏内で、東京駅・月島なども近いので、なんでも揃っています。独身であれば院内に安く借りられる宿舎があるのでよい選択だと思います。



これはイチオシ！

私はがんを専門にしたいと思って来ましたが、がんの診療経験が全くないレジデント、がんに苦手意識を持っていて克服したいレジデント、キャリアアップのために来るレジデントなど、色々な背景とビジョンを持つレジデントが年次関係なく集まり、初期研修医のような一生の仲間になれる経験は、今後の人生でもなかなかない機会だと思います。

みなさんへのメッセージ

当院のスタッフや研究所の先生方、レジデントと一緒に仕事をすることは、今後がんを専門にするにしろしないにしろ、先生方の人生に新しい視点と豊かな経験を加えることができるチャンスになると思います。具体的になくても結構ですので、まずは気軽に連絡をください。

ある1日のスケジュール

7:50	抄読会・治験キックオフなどカンファレンス
8:30	主治医と病棟回診
10:00	研究・論文執筆
12:00	レジデント・チーフレジデントと昼食
13:00	研究・論文執筆
15:00	病棟カンファレンス
16:00	主治医と病棟回診
17:00	帰宅

がん専門修練医募集要項

1. 応募資格

- 原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師
- (1) 国立がん研究センターレジデント研修を修了した者、または修了見込みの者
 - (2) 各コースに関連するサブスペシャリティ領域専門医等取得済みまたは取得見込みの者
 - (3) 上記と同等の能力を有する者

注：詳細は各研修課程のページを参照すること
注：厚生労働省の開催指針に従った「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」を修了している者が望ましい。未受講者については採用後、当センター等で実施する緩和ケア研修会を受講することとする。

2. 募集人数（予定）

中央病院 20 名程度
*東病院 15 名程度

3. 出願手続

- (1) 出願書類を下記住所までご郵送ください
(中央病院) 〒 104 - 0045 東京都中央区築地 5 - 1 - 1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係
- (2) 締切日（必着）
(中央病院) 2019 年 9 月 20 日（金）
- (3) 必要書類
 - ア．願書（所定様式・A3 判）
 - イ．健康診断書（所定様式）（1 年未満の診断結果）
 - ウ．上司または指導者の推薦状（所定様式）
 - エ．医師免許証の写し（A4 判に縮小）
 - オ．大学（医学課程）卒業証書の写し（A4 判に縮小）または卒業証明書
 - カ．在職証明書（臨床医学系大学院の在籍証明書も可。病理部門の志望者は不要）
 - キ．手術経験記載表（所定様式）
(外科・外科系部門の志望者のみ提出。一般外科術式の経験がない場合は空欄に専門分野の経験術式名・経験数を記入すること)
 - ク．「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」修了証書の写し（修了者のみ）

4. 選考方法

書類審査および面接試験
※応募者多数の場合には書類にて一次選考を行います
※一次選考の結果および面接試験の案内は Email 等により通知いたします

5. 選考日

(中央病院) 2019 年 10 月 11 日（金）
*（東病院）前期：2019 年 9 月 9 日（月）／後期：2019 年 11 月 11 日（月）

6. 選考会場

(中央病院) 国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 管理棟 会議室
東京都中央区築地 5 - 1 - 1

7. 合格発表

選考日のおおむね 1 か月後
※結果は郵送にて通知いたします。電話でのお問い合わせには対応いたしませんのでご了承ください。

8. 研修期間

2 年間（2020 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）

9. 勤務

研修課程に基づき、指導医のもとで高度な知識と技術の習得、開発に努め、患者の診察に従事する（1 年目には宿日直勤務、2 年目には研究を含む）。

10. 処遇等

- (1) 身分 非常勤職員（医師）
- (2) 手当 国立研究開発法人国立がん研究センター非常勤職員就業規則、国立研究開発法人国立がん研究センター非常勤医師及び研究員給与規程に基づき支給する。
(2019 年度給与支給見込み額 403,200 円／月額 *各種手当は除く)
- (3) 保険 社会保険（厚生年金・健康保険・雇用保険）に加入します。
- (4) 宿舍 単身者用の宿舍（有料）空室時利用できます。
- (5) 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付します。

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒 104-0045 東京都中央区築地 5 - 1 - 1
TEL:03-3542-2511（内線 2203）
E-mail : kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください <https://www.ncc.go.jp/>
国立がん研究センターホームページ>（中央病院・東病院）>人材募集>レジデント募集情報

レジデント（3年コース・2年コース・連携大学院コース）・専攻医（基幹施設型）募集要項

1. 応募資格

●レジデント（3年コース・2年コース・連携大学院コース）

原則として以下の全ての条件を満たした医師

- （1）採用時に医師免許取得後3年目以降の者
 - （2）基本領域専門医または認定医等取得済みもしくは取得見込みの者
- 歯科部門については採用時に歯科医師免許取得後3年目以降の者

●専攻医（基幹施設型）

以下の全ての条件を満たした医師

- （1）採用時に医師免許取得後3年目以降の者
- （2）専門医制度において中央病院を基幹施設として選択した専攻医

注：詳細は各研修課程のページを参照すること

注：厚生労働省の開催指針に従った「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」を修了している者が望ましい。未受講者については採用後、当センター等で実施する緩和ケア研修会を受講することとする。

2. 募集人数（予定）

中央病院 30 名程度

*東病院 20 名程度

3. 出願手続

- （1）出願書類を下記住所までご郵送ください

（中央病院）〒104－0045 東京都中央区築地 5－1－1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

- （2）締切日（必着）

（中央病院）2019 年 9 月 20 日（金）

- （3）必要書類

- ア．願書（所定様式・A3 判）
- イ．健康診断書（所定様式）（1 年未満の診断結果）
- ウ．上司または指導者の推薦状（所定様式）
- エ．医師免許証の写し（A4 判に縮小）（歯科部門については歯科医師免許証の写し）
- オ．大学（医学課程、歯科部門は歯学課程）卒業証書の写し（A4 判に縮小）または卒業証明書
- カ．在職証明書（臨床医学系大学院の在籍証明書も可。病理部門の志望者は不要）
- キ．手術経験記載表（所定様式）
（外科・外科系部門の志望者のみ提出。一般外科術式の経験がない場合は空欄に専門分野の経験術式名・経験数を記入すること）
- ク．「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」修了証書の写し（修了者のみ）

4. 選考方法

書類審査、筆記試験および面接試験（応募状況により一部省略有）

※応募者多数の場合には書類にて一次選考を行います

※一次選考の結果および試験の案内は Email 等により通知いたします

5. 選考日

（中央病院）2019 年 10 月 8 日（火）

*（東病院）前期：2019 年 9 月 10 日（火）／後期：2019 年 11 月 12 日（火）

注：2 年コース応募者について、4 月以外の研修開始を希望する場合には調整を行う

6. 選考会場

（中央病院）国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 管理棟 会議室
東京都中央区築地 5－1－1

7. 合格発表

選考日のおおむね 1 か月後

※結果は郵送にて通知いたします。電話でのお問い合わせには対応いたしませんのでご了承ください。

8. 研修期間

3 年間（2020 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）または 2 年間（基本として 2020 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）

注：連携大学院コースについては上記期間修了後に続けて 2 年程度の研修を行う

9. 勤務

研修課程に基づき、指導医のもとで幅広い知識と技術の習得、開発に努め、患者の診察に従事する（宿日直勤務を含む）。

10. 処遇等 ※変更となる可能性もあります

- （1）身分 非常勤職員（医師・歯科医師）
- （2）手当 国立研究開発法人国立がん研究センター非常勤職員就業規則、国立研究開発法人国立がん研究センター非常勤医師及び研究員給与規程に基づき支給する。
（2019 年度給与支給見込み額 352,800 円／月額 *各種手当は除く）
- （3）保険 社会保険（厚生年金・健康保険・雇用保険）に加入します。
- （4）宿舍 単身者用の宿舍（有料）空室時利用できます。
- （5）修了 所定の研修修了時に修了証書を交付します。

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒104-0045 東京都中央区築地 5－1－1

TEL:03-3542-2511（内線 2203）

E-mail : kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください <https://www.ncc.go.jp/>

国立がん研究センターホームページ>（中央病院・東病院）>人材募集>レジデント募集情報

レジデント（短期コース）・専攻医（連携施設型）募集要項

注：専攻医コース（基幹施設型）志望者は前頁を参照すること

1. 応募資格

●レジデント（短期コース）

原則として基本領域専門医または認定医等取得済みもしくは取得見込みの医師
歯科部門については採用時に歯科医師免許取得後 2 年目以降の者

●専攻医（連携施設型）

以下の全ての条件を満たした医師

- （1）採用時に医師免許免許取得後 3 年目以降の者
- （2）専門医制度において中央病院・東病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医

注：詳細は各研修課程のページを参照すること

注：厚生労働省の開催指針に従った「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」を修了している者が望ましい。未受講者については採用後、当センター等で実施する緩和ケア研修会を受講することとする。

2. 募集人数

中央病院・東病院 若干名 *前年度レジデント短期コース採用実績 中央病院 40 名 東病院 17 名

3. 出願手続

出願書類郵送前に、氏名、出身大学名、卒業年、卒後年数、現所属機関名、希望の研修施設（中央もしくは東病院）・コース・研修開始月・研修期間を専門教育企画係までメールにてご連絡ください。（メール受付締切日については当センター HP をご参照ください）
研修者数に余裕がある場合の採用が原則となるため、状況により受け付けできないこともございます。あらかじめご了承ください。

- （1）出願書類を下記住所までご郵送ください

（中央病院）〒 104 - 0045 東京都中央区築地 5 - 1 - 1

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

- （2）締切日 4 月・7 月開始コース：2019 年 10 月 15 日（火）

10 月・1 月開始コース：決定次第当センター HP に掲載します。

- （3）必要書類

ア．願書（所定様式・A3 判）

イ．健康診断書（所定様式）（1 年未満の診断結果）

ウ．上司または指導者の推薦状（所定様式）（専攻医コース（連携施設型）の志望者は不要）

エ．医師免許証の写し（A4 判に縮小）（歯科部門は歯科医師免許証の写し）

オ．大学（医学課程、歯科部門は歯学課程）卒業証書の写し（A4 判に縮小）または卒業証明書

カ．在職証明書（臨床医学系大学院の在籍証明書も可。病理部門の志望者は不要）

キ．手術経験記載表（所定様式）

（外科・外科系部門の志望者のみ提出。一般外科術式の経験がない場合は空欄に専門分野の経験術式名・経験数を記入すること）

ク．「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」修了証書の写し（修了者のみ）

4. 選考方法

●レジデント（短期コース） 応募書類と面接による選考

●専攻医（連携施設型） 面接

注：面接の日程は調整後、Email 等により通知いたします

5. 選考日

4 月・7 月開始コース：（中央病院）2019 年 10 月 28 日（月）

*（東病院）2019 年 10 月 29 日（火）

10 月・1 月開始コース：2020 年 7 月下旬予定

6. 選考会場

（中央病院）国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 管理棟 会議室
東京都中央区築地 5 - 1 - 1

7. 合格発表

選考日のおおむね 1 か月後

※結果は郵送にて通知いたします。電話でのお問い合わせには対応いたしませんのでご了承ください。

8. 研修期間

研修コースにより異なる。（最短 3 ヶ月、最長 2 年未満）

注：記載の研修期間以上の研修延長は不可とする

注：専攻医については各学会の定める規定も考慮し調整を行う

9. 勤務

研修課程に基づき、指導医のもとで幅広い知識と技術の習得、開発に努め、患者の診療に従事する（宿日直勤務を含む）。

10. 処遇等

※変更となる可能性もあります

- （1）身分 非常勤職員（医師・歯科医師）

- （2）手当 国立研究開発法人国立がん研究センター非常勤職員就業規則、国立研究開発法人国立がん研究センター非常勤医師及び研究員給与規程に基づき支給する。
（2019 年度給与支給見込み額 352,800 円／月額 *各種手当は除く）

- （3）保険 社会保険（厚生年金・健康保険・雇用保険）に加入します。

- （4）宿舍 単身者用の宿舍（有料）空室時利用できます。

- （5）修了 所定の研修修了時に修了証書を交付します。

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒 104-0045 東京都中央区築地 5 - 1 - 1

TEL:03-3542-2511（内線 2203）

E-mail : kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください <https://www.ncc.go.jp/>

国立がん研究センターホームページ>（中央病院・東病院）>人材募集>レジデント募集情報

採用試験日程

2020年度
がん専門修練医・レジデント・専攻医
採用試験日程

試験の種類	出願書類締切日	選考日
がん専門修練医	【中央病院】 2019年9月20日(金) 【東病院】 前期:2019年8月30日(金) 後期:2019年11月1日(金)	【中央病院】 2019年10月11日(金) 【東病院】 前期:2019年9月9日(月) 後期:2019年11月11日(月)
レジデント (3年コース・2年コース・連携大学院コース) 専攻医(基幹施設型)	【中央病院】 2019年9月20日(金) 【東病院】 前期:2019年8月30日(金) 後期:2019年11月1日(金)	【中央病院】 2019年10月8日(火) 【東病院】 前期:2019年9月10日(火) 後期:2019年11月12日(火)
レジデント(短期コース) <4月・7月開始>	2019年10月15日(火)	【中央病院】2019年10月28日(月) 【東病院】2019年10月29日(火)
レジデント(短期コース) <10月・1月開始>	2020年7月中旬予定	2020年7月下旬予定

* 詳しくは募集要項をご覧ください。

交通案内

 築地キャンパス

-  中央病院
-  研究所
-  社会と健康研究センター
-  がん対策情報センター
-  がんゲノム情報管理センター



〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
TEL 03-3542-2511

- ・都営地下鉄 大江戸線 築地市場駅 A3 番出口から徒歩1分
- ・東京メトロ 日比谷線 築地駅 2 番出口から徒歩5分
- ・都営地下鉄 浅草線 東銀座駅 6 番出口から徒歩5分
- ・東京メトロ 有楽町線 新富町駅 4 番出口から徒歩10分

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
TEL:03-3542-2511 (内線 2203)
E-mail : kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください <https://www.ncc.go.jp/>
国立がん研究センターホームページ> (中央病院・東病院)> 人材募集> レジデント募集情報



国立がん研究センター 中央病院
National Cancer Center Hospital

<https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/>